



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 3 月 2 8 日
Date of Application:

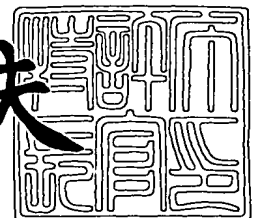
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 9 2 0 6 4
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 3 - 0 9 2 0 6 4]

出 願 人 ブラザー工業株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 7 月 2 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 2002110200

【提出日】 平成15年 3月28日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01H 13/20

【発明の名称】 折畳可能なキーボード

【請求項の数】 4

【発明者】

 【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町 1 5 番 1 号 ブラザー工業株式会社
社内

 【氏名】 望月 勲

【発明者】

 【住所又は居所】 名古屋市瑞穂区苗代町 1 5 番 1 号 ブラザー工業株式会社
社内

 【氏名】 高木 猛行

【特許出願人】

 【識別番号】 000005267

 【氏名又は名称】 ブラザー工業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100098431

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 山中 郁生

 【連絡先】 0 5 2 - 2 1 8 - 7 1 6 1

【選任した代理人】

 【識別番号】 100097009

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 富澤 孝

【選任した代理人】

【識別番号】 100105751

【弁理士】

【氏名又は名称】 岡戸 昭佳

【選任した代理人】

【識別番号】 100109195

【弁理士】

【氏名又は名称】 武藤 勝典

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 041999

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9506366

【包括委任状番号】 0018483

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 折畳可能なキーボード

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットとを回動軸を介して回動可能に連結し、キーボードの使用時には回動軸を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動軸を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードにおいて、

前記第 1 キーボードユニットの一側にて相互に対向する隅部のそれぞれに形成された第 1 支持部と、

前記第 2 キーボードユニットの一側にて相互に対向する隅部のそれぞれに形成された第 2 支持部と、

前記各第 1 支持部及び各第 2 支持部とに回動可能に連結される一対の支持片と、各支持片間に形成されるカバー部とを有し、前記第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットとが重ね合わされた状態で両ユニットの端面を被覆する蓋部材と、

前記第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットを離間する方向に回動させることに連動して起立状態に配置される機器支持部材と、

前記蓋部材のカバー部にて、前記回動軸の軸方向に沿って第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引出可能に配設されたキーボード安定部材とを備え、

前記キーボード安定部材は、前記機器支持部材に機器が支持されている際に、第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引き出されて、両ユニットの底面がその設置面から離間することを防止する折畳可能なキーボード。

【請求項 2】 前記各第 1 支持部に対応して各支持片のそれぞれに形成された第 1 長孔と、

前記各第 2 支持部に対応して各支持片のそれぞれに形成された第 2 長孔と、

前記第 1 長孔に遊嵌されるとともに前記第 1 支持部に支持された第 1 支持軸と

前記第2長孔に遊嵌されるとともに前記第2支持部に支持された第2支持軸とを備えたことを特徴とする請求項1に記載の折畳可能なキーボード。

【請求項3】 前記第1長孔に遊嵌された第1支持軸に回動可能に支持された第1リンクと、

前記第2長孔に遊嵌された第2支持軸に回動可能に支持された第2リンクと、
前記第1リンクと第2リンクとを相互に回動可能に連結する連結軸とを備えたことを特徴とする請求項2に記載の折畳可能なキーボード。

【請求項4】 前記支持片に形成され、前記第1長孔及び第2長孔の長さ方向に対して直角な方向に配置された第3長孔と、

前記連結軸に形成され、前記第3長孔に遊嵌される突起とを備え、

前記突起は、前記第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの回動動作時に第3長孔内を摺動することを特徴とする請求項3に記載の折畳可能なキーボード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯性に優れるとともに操作時には良好な操作性を有する折畳可能なキーボードに関し、特に、PDA等の携帯小型機器を接続支持した際に、かかる携帯小型機器の重量に起因してキーボードがその設置面から離間してしまうことを防止して安定してキーボードを操作できる折畳可能なキーボードに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、キーボードを2つのキーボードユニットに分割するとともに、各キーボードユニットを相互に回動可能に連結し、非使用時には各キーボードユニットを折り畳んだ状態でコンパクトにして携帯を容易にし、また、使用時には各キーボードユニットを折畳状態から開放して通常のキーボードと同等の操作性を実現した各種の折畳可能なキーボードが提案されている。

【0003】

例えば、特開 2000-56904 号公報には、2つの分割キーボードの少なくとも一方を支持プレート上で摺動自在に支持するとともに、各分割キーボードをそれぞれ背プレートの両辺で支持プレートを介して回動自在に連結した折畳式のキーボードが記載されている。

【0004】

また、米国特許第 5574481 号公報には、キーボードを 2つのキーボードユニットに分割するとともに、各キーボードユニットを相互に接離可能となるように連結し、各キーボードユニットを離れた状態で相互に折り畳むことが可能なキーボードが記載されている。

【0005】

【特許文献 1】

特開 2000-56904 号公報（第 3～5 ページ、図 1～図 12）

【特許文献 2】

米国特許第 5574481 号公報（第 2 コラム、第 3 コラム、図 2、図 7、図 9）

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、PDA 等の小型携帯機器の進展には目覚ましいものがあり、広く一般に普及しつつあるが、この種の小型携帯機器では、キースイッチ等が配置されているものの、機器本体が小さいことからキースイッチ等も必然的に小さなものとなり、かかる携帯機器に接続できる携帯可能なキーボードの出現が望まれている。

【0007】

しかしながら、前記した特開 2000-56904 号公報に記載されたキーボードでは、背プレートの両側に 2つの各分割キーボードを回動可能に支持することにより、各分割キーボードが折畳可能となるものであるが、PDA 等の携帯小型機器への接続については何等考慮されてはいない。

【0008】

また、米国特許第 5574481 号公報に記載されたキーボードでは、2つの各キーボードユニットを離間した状態で折畳可能となるものではあるが、前記の場合と同様、PDA等の携帯小型機器への接続については何等考慮されてはいない。

【0009】

本発明は前記従来における問題点を解消するためになされたものであり、PDA等の携帯小型機器を接続支持した際に、かかる携帯小型機器の重量に起因してキーボードがその設置面から離間してしまうことを防止して安定してキーボードを操作できる折畳可能なキーボードを提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するため請求項 1 に係る折畳可能なキーボードは、第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットとを回動軸を介して回動可能に連結し、キーボードの使用時には回動軸を介して両ユニットが離間する方向に回動されて水平状態になるとともに、キーボードの非使用時には回動軸を介して両ユニットが近接する方向に回動されて重ね合わせた状態になる折畳可能なキーボードにおいて、前記第 1 キーボードユニットの一侧にて相互に対向する隅部のそれぞれに形成された第 1 支持部と、前記第 2 キーボードユニットの一侧にて相互に対向する隅部のそれぞれに形成された第 2 支持部と、前記各第 1 支持部及び各第 2 支持部とに回動可能に連結される一对の支持片と、各支持片間に形成されるカバー部とを有し、前記第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットとが重ね合わされた状態で両ユニットの端面を被覆する蓋部材と、前記第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットを離間する方向に回動させることに連動して起立状態に配置される機器支持部材と、前記蓋部材のカバー部にて、前記回動軸の軸方向に沿って第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引出可能に配設されたキーボード安定部材とを備え、前記キーボード安定部材は、前記機器支持部材に機器が支持されている際に、第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引き出されて、両ユニットの底面がその設置面から離間することを防止することを特徴とする。

【0011】

請求項1に係る折畳可能なキーボードでは、蓋部材のカバー部にて、前記回転軸の軸方向に沿って第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの外側まで引出可能に配設されたキーボード安定部材を設け、かかるキーボード安定部材は、前記機器支持部材に機器が支持されている際に、第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの外側まで引き出されて、両ユニットの底面がその設置面から離間することを防止するので、機器支持部材にPDA等の小型携帯機器を支持した場合においても、安定してキーボードの操作を行うことができる。

【0012】

また、蓋部材が、第1及び第2キーボードユニットの回転動作に従って回転されるとともに、両ユニットが重ね合わされた状態で蓋部材のカバー部が両ユニットの端面を被覆し、且つ、蓋部材の各支持片が両ユニットの端面側部を被覆するように構成したので、両ユニットの端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを防止することが可能であるとともに見栄えを極めて良好にすることができる。

【0013】

また、請求項2に係る折畳可能なキーボードは、請求項1の折畳可能なキーボードにおいて、前記各第1支持部に対応して各支持片のそれぞれに形成された第1長孔と、前記各第2支持部に対応して各支持片のそれぞれに形成された第2長孔と、前記第1長孔に遊嵌されるとともに前記第1支持部に支持された第1支持軸と、前記第2長孔に遊嵌されるとともに前記第2支持部に支持された第2支持軸とを備えたことを特徴とする。請求項2に係る折畳可能なキーボードでは、蓋部材におけるカバー部に形成された一对の各支持片のそれぞれに第1長孔及び第2長孔を形成し、第1支持軸を第1長孔に遊嵌させつつ第1キーボードユニットの隅部に形成された各第1支持部に支持するとともに、第2支持軸を第2長孔に遊嵌させつつ第2キーボードユニットの隅部に形成された各第2支持部に支持し、これにより第1支持軸と第1長孔及び第2支持軸と第2長孔の協働作用を介して、蓋部材が、第1及び第2キーボードユニットの回転動作に従って回転されるとともに、両ユニットが重ね合わされた状態で蓋部材のカバー部が両ユニットの端

面を被覆し、且つ、蓋部材の各支持片が両ユニットの端面側部を被覆するように構成したので、両ユニットの端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを防止することが可能であるとともに見栄えを極めて良好にすることができる。

【0014】

更に、請求項3に係る折畳可能なキーボードは、請求項2の折畳可能なキーボードにおいて、前記第1長孔に遊嵌された第1支持軸に回動可能に支持された第1リンクと、前記第2長孔に遊嵌された第2支持軸に回動可能に支持された第2リンクと、前記第1リンクと第2リンクとを相互に回動可能に連結する連結軸とを備えたことを特徴とする。請求項3に係る折畳可能なキーボードでは、蓋部材の支持片における第1長孔に遊嵌される第1支持軸に第1リンクを回動可能に支持するとともに、蓋部材の支持片における第2長孔に遊嵌される第2支持軸に第2リンクを回動可能に支持し、第1リンクと第2リンクとを連結軸で相互に回動可能に連結しているので、第1支持軸と第1長孔及び第2支持軸と第2長孔の協働作用に基づき蓋部材の回動動作を行うについて、第1リンク及び第2リンクのリンク作用を利用して蓋部材の回動動作を円滑に行うことができる。これにより、第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとを、相互に安定して回動させることができる。

【0015】

また、請求項4に係る折畳可能なキーボードは、請求項3の折畳可能なキーボードにおいて、前記支持片に形成され、前記第1長孔及び第2長孔の長さ方向に対して直角な方向に配置された第3長孔と、前記連結軸に形成され、前記第3長孔に遊嵌される突起とを備え、前記突起は、前記第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの回動動作時に第3長孔内を摺動することを特徴とする。請求項4に係る折畳可能なキーボードでは、第1リンクと第2リンクとを回動可能に連結する連結軸に形成された突起を、支持片に形成され第1長孔及び第2長孔に対して直角な方向に配置された第3長孔内を摺動可能に構成したので、第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの回動動作の途中においても、連結軸の突起は第3長孔に沿って摺動されることから、両ユニットは第3長孔を

基準として対称に回動されることとなり、従って、両ユニットの回動動作を安定して行うことができる。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る折畳可能なキーボードについて、本発明を具体化した実施形態に基づき図面を参照しつつ詳細に説明する。先ず、本実施形態に係るキーボードの概略構成について図1、図2に基づき説明する。図1は折畳可能なキーボードを正面側から見て模式的に示す分解斜視図、図2は折畳可能なキーボードを背面側から見て模式的に示す分解斜視図である。

【0017】

図1及び図2において、キーボード1は、基本的に、第1回動連結部2A（図1、図2中背面側参照）及び第2回動連結部2B（図1、図2中手前側参照）を介して相互に回動可能に連結された第1キーボードユニット3及び第2キーボードユニット4から構成されている。第1キーボードユニット3は、外側における2つの隅部にゴム製の支持脚3Bを取り付けた第1表面板3A、第1ベース板5、第1ベース板5上で水平方向に回動可能に支持された第1支持板6、及び、第1支持板6上に配設された複数個のキースイッチ7から構成されている。また、第2キーボードユニット4は、外側における2つの隅部にゴム製の支持脚4Bを取り付けた第2表面板4A、第2ベース板8、第2ベース板8上で水平方向に回動可能に支持された第2支持板9、及び、第2支持板9上に配設された複数個のキースイッチ10から構成されている。

【0018】

ここで、先ず、第1回動連結部2Aの構成について説明する。第1ベース板5はアルミ等の金属薄板から形成されており、第1ベース板5の側端部（図1における右端部）における図1中背面側の隅部12Aには、第1回動連結部2Aの一部を構成する樹脂製の軸受部材14が設けられている。軸受部材14には、軸受孔14Aが形成された3つの軸受14Bが離間して設けられている。また、第2ベース板8は、第1ベース板5と同様、アルミ等の金属薄板から形成されており、第2ベース板8の側端部（図1における左側端部）における図1中背面側の隅

部 16A には、第 1 回動連結部 2A の一部を構成する樹脂製の軸受部材 18 が設けられている。軸受部材 18 には、軸受孔 18A が形成された 2 つの軸受 18B が設けられている。

【0019】

そして、各軸受 18B は各軸受 14B の間に嵌入されるとともに、各軸受 18B の軸受孔 18A と各軸受 14B の軸受孔 14A とが一直線に配置される。このように一直線に配置された各軸受孔 14A、18A に対しては回動軸 19（図 2 参照）が挿嵌される。これにより、回動軸 19 を介して第 1 ベース板 5 と第 2 ベース板 8 とは、相互に回動可能に支持される。

【0020】

ここに、第 1 ベース板 5 における軸受部材 14 には、これと一体に中空状の枠部 23 が形成されており、かかる枠部 23 内には、第 1 キーボードユニット 3 に設けられた各キースイッチ 7 を、後述するコネクタ部材 60 に接続するための信号線（図示せず）が挿通されている。また、枠部 23 には、軸受部材 14 に隣接して、コネクタ部材 60 を収納するコネクタ収納部 61 が凹状に形成されている。かかるコネクタ収納部 61 において、相互に対向する内側壁 61A（図 1 には一方のみを示す）には、支持孔 62 が形成されている。かかる支持孔 62 については、コネクタ部材支持構造の説明にて後述する。

【0021】

また、コネクタ収納部 61 は、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを相互に折り畳んだ際に、第 2 キーボードユニット 4 における第 2 ベース板 8 に形成されるコネクタ収納部（後述する）と協働して、コネクタ部材 60 をキーボード 1 内に収納するものである。

【0022】

更に、コネクタ収納部 61 に隣接して、枠部 23 には、一対の支持部材 80、80 を収納する収納凹部 63 が形成されている。かかる収納凹部 63 は、第 2 ベース板 8 にて同様に形成される収納凹部（後述する）と協働して、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを相互に折り畳むことに連動して折り畳まれる一対の支持部材 80、80 をその折畳状態で収納するものである。

【0023】

また、第2ベース板8における軸受部材18には、これと一体に中空状の枠部24が形成されており、かかる枠部24内には、第2キーボードユニット4に設けられた各キースイッチ10を、後述するコネクタ部材60に接続するための信号線（図示せず）が挿通されている。また、枠部24には、軸受部材18に隣接して、コネクタ部材60を収納するコネクタ収納部64が凹状に形成されている。かかるコネクタ収納部64において、相互に対向する内側壁64A（図1には一方のみを示す）には、ネジ孔65が形成されている。かかるネジ孔65については、コネクタ部材支持構造の説明にて後述する。

【0024】

また、コネクタ収納部64には、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを相互に折り畳んだ際に、第1キーボードユニット3における第1ベース板5に形成されるコネクタ収納部61と協働して、コネクタ部材60をキーボード1内に収納するものである。

【0025】

更に、コネクタ収納部64に隣接して、枠部24には、一对の支持部材80、80を収納する収納凹部66が形成されている。かかる収納凹部66は、第1ベース板5に形成される収納凹部63と協働して、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを相互に折り畳むことに連動して折り畳まれる一对の支持部材80、80をその折畳状態で収納するものである。

【0026】

次に、第2回動連結部2Bの構成について説明する。第1ベース板5において、前記隅部12Aに対向する図1中手前側の隅部12Bには、第2回動連結部2Bの一部を構成する樹脂製の軸受部材13が設けられている。軸受部材13には、軸受孔13Aが形成されている。また、第2ベース板8において、前記隅部16Aに対向する図1中手前側の隅部16Bには、第2回動連結部2Bの一部を構成する樹脂製の軸受部材17が設けられている。軸受部材17には、軸受孔17Aが形成されている。

【0027】

前記軸受部材 13 及び軸受部材 17 に対しては、間にリンク機構 90 を介在させて蓋部材 100 が連結されている。

【0028】

ここで、先ず、リンク機構 90 について、図 3 に基づき説明する。図 3 はリンク機構を拡大して示す説明図である。図 3 において、リンク機構 90 は、一端（図 3 中左端）に支持孔 91 が形成されるとともに他端（図 3 中右端）に連結孔 92 が形成されたリンク 93 と、一端に（図 3 中右端）に支持孔 94 が形成されるとともに他端（図 3 中左端）に連結孔 95 が形成されたリンク 96 とから構成される。リンク 93 の連結孔 92 とリンク 96 の連結孔 95 とは、相互に重ね合わされ、各連結孔 92、95 には、連結部材 97 の連結軸 98 が嵌入されている。これにより、リンク 93 と 96 とは、連結部材 97 の連結軸 98 を介して相互に回動可能に連結される。尚、連結部材 97 において、連結軸 98 と反対側には突起 99 が形成されている。かかる突起 99 の作用については後述する。

【0029】

次に、蓋部材 100 の構成について図 4 に基づき説明する。図 4 は蓋部材を拡大して示す説明図である。図 4 において、蓋部材 100 は、基本的に、カバー部 101 及びカバー部 101 の長手方向の両端縁から一体に立設された一对の支持片 102、103 から構成されている。カバー部 101 は略長形状のカバー板 104 を有しており、かかるカバー板 104 の幅は、折り畳んだ状態における第 1 キーボードユニット 3 及び第 2 キーボードユニット 4 の端面を被覆可能なように、両ユニット 3、4 の厚さを合計した厚さよりも若干広く形成されている。また、カバー板 104 の一端部（図 4 中右端部）において、凹部 105 の両側には肉厚の支持部 106 及び 107 が形成されており、各支持部 106、107 には、カバー板 104 の長手方向に沿って穿設された摺動孔 108、109 が形成されている。そして、各摺動孔 108、109 には、平面視でコ字状の安定部材 110 の軸部 111、112 が摺動可能に挿嵌されている。また、各軸部 111、112 の端部には、ストッパ溝 113、114 が形成されており、かかる各ストッパ溝 113、114 には、U 字状のストッパリング 115、116 が嵌着されている。このように構成された、安定部材 110 は、カバー板 104 の長手方向

(前記した回動軸 19 の軸方向と一致する方向) に第 1 キーボードユニット 3、第 2 キーボードユニット 4 の外側まで引出可能にされており、その使用時には、図 4 に示す状態からストッパリング 115、116 が摺動孔 108、109 に当接するまで外側に引き出され、また、その非使用時には、図 4 に示す収納位置まで押し込まれる。かかる安定部材 110 は、後述するように、その使用時において、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを水平状態にしてキーボード 1 を使用する際に、前記した各支持部材 80、80 を起立状態にして PDA 等の小型形態機器を支持することに起因して、小型携帯機器の重量により各第 1 キーボードユニット 3、第 2 キーボードユニット 4 の底面がその設置面から離間してしまうことを防止してキーボード 1 の安定化を図るものである。

【0030】

カバー部 101 におけるカバー板 104 の一端縁 (図 4 中左側端縁) から立設された支持片 102 には、水平方向に一直線上に並ぶように第 1 長孔 117 及び第 2 長孔 118 が形成されている。第 1 長孔 117 は、第 1 キーボードユニット 3 における第 1 ベース板 5 に形成された軸受部材 13 の軸受孔 13A に対応しており、また、第 2 長孔 118 は、第 2 キーボードユニット 4 における第 2 ベース板 8 に形成された軸受部材 17 の軸受孔 17A に対応している。更に、支持片 102 には、第 1 長孔 117 及び第 2 長孔 118 の長さ方向に対して直角な方向に第 3 長孔 119 が形成されている。この第 3 長孔 119 には、連結部材 97 の突起 99 が遊嵌される。また、支持片 102 の上下方向の略中央位置において、支持片 102 の左側には嵌合溝 130 が形成され、また、支持片 102 の右側には嵌合溝 131 が形成されている。嵌合溝 130 には、後述する第 1 キーボードユニット 3 の第 1 支持板 6 の円弧面 38 に形成された薄板部 38A (図 9 参照) が摺動可能に嵌合され、また、嵌合溝 131 には、後述する第 2 キーボードユニット 4 の第 2 支持板 9 の円弧面 48 に形成された薄板部 48A (図 9 参照) が摺動可能に嵌合される。尚、各嵌合溝 130、131 の作用については後述する。

【0031】

カバー部 101 におけるカバー板 104 の他側縁 (図 4 中右側縁) から立設された支持片 103 には、前記支持片 102 の第 1 長孔 117 と対応する位置に、

これと同一の第1長孔117が形成されており、また、前記第2長孔118と対応する位置に、これと同一の第2長孔118が形成されている。第1長孔117は、第1キーボードユニット3における第1ベース板5に形成された支持孔121（図2参照）に対応しており、また、第2長孔118は、第2キーボードユニット4における第2ベース板8に形成された支持孔120に対応している。更に、支持片103には、前記支持片102の場合と同様、第1長孔117及び第2長孔118の長さ方向に対して直角な方向に第3長孔119が形成されている。この第3長孔119には、各軸受14Bの軸受孔14Aと各軸受18Bの軸受孔18Aのそれぞれに挿嵌される回動軸19の端部が遊嵌される。尚、支持片103の上縁には円弧部122が形成されているが、かかる円弧部122は、第1ベース板5における枠部23の上面及び第2ベース板8における枠部24の上面から突出する各軸受14B及び各軸受部18Bの円弧面に合わせて、これらを背面から被覆してキーボード1の外部から見えなくするものである。

【0032】

続いて、前記のように構成されたリンク機構90、蓋部材100と第1キーボードユニット3、第2キーボードユニット4との連結支持構造について説明する。

【0033】

図1に示すように、支持ネジ123が、蓋部材100における支持片102の第1長孔117に遊嵌されるとともに、リンク機構90におけるリンク93の支持孔91に挿通されており、かかる支持ネジ123は、第1キーボードユニット3における第1ベース板5に形成された軸受部材13の軸受孔13Aに軸支固定される。また、図2に示すように、キーボード1の背面側において、支持ネジ124が、支持片103における第1長孔117に遊嵌されるとともに、第1ベース板5の支持孔121に軸支固定される。これにより、第1キーボード3の前面側で、蓋部材100は、リンク機構90を介在させつつ第1キーボードユニット3に連結支持され、また、第1キーボードユニット3の背面側で、蓋部材100は、第1キーボードユニット3に連結支持される。このとき、蓋部材100は、第1長孔117を介して支持ネジ123に対して回転及び移動が可能であり、ま

た、リンク機構 90 のリンク 93 は、支持ネジ 123 に対して回転可能である。尚、リンク 93 は、連結軸 98 を介してリンク 96 と相互に回転可能であり、また、連結軸 98 の突起 99 は、支持片 102 の第 3 長孔 119 に遊嵌されていることは前記の通りである。

【0034】

また、図 1 に示すように、支持ネジ 125 が、蓋部材 100 における支持片 102 の第 2 長孔 118 に遊嵌されるとともに、リンク機構 90 におけるリンク 96 の支持孔 94 に挿通されており、かかる支持ネジ 125 は、第 2 キーボードユニット 4 における第 1 ベース板 8 に形成された軸受部材 17 の軸受孔 17A に軸支固定される。また、図 2 に示すように、キーボード 1 の背面側において、支持ネジ 126 が、支持片 103 における第 2 長孔 118 に遊嵌されるとともに、第 2 ベース板 8 の支持孔 120 に軸支固定される。これにより、第 2 キーボード 4 の前面側で、蓋部材 100 は、リンク機構 90 を介在させつつ第 2 キーボードユニット 4 に連結支持され、また、第 2 キーボードユニット 4 の背面側で、蓋部材 100 は、第 1 キーボードユニット 3 に連結支持される。このとき、蓋部材 100 は、第 2 長孔 118 を介して支持ネジ 125 に対して回転及び移動が可能であり、また、リンク機構 90 のリンク 96 は、支持ネジ 125 に対して回転可能である。

【0035】

ここで、図 1 に戻って第 1 キーボードユニット 3 の構成について説明を続けると、第 1 ベース板 5 において、図 1 中左側端縁の近傍で略中央位置には、ネジ受部 27 が形成されており、このネジ受部 27 には、第 1 支持板 6 のネジ孔 28 に遊嵌されるネジ 29 が締結される。これにより、第 1 支持板 6 はネジ 29 及びネジ受部 27 を支点として第 1 ベース板 5 上で水平方向に回転可能に取り付けられる。また、第 2 ベース板 8 において、図 1 中右側端部より少し内側に入った略中央位置には、ネジ受部 30 が形成されており、このネジ受部 30 には、第 2 支持板 9 のネジ孔 31 に遊嵌されるネジ 32 が締結される。これにより、第 2 支持板 9 は、ネジ受部 30 を支点として第 2 ベース板 8 上で水平方向に回転可能に取り付けられる。

【0036】

第1キーボードユニット3における第1支持板6はアルミ等の金属薄板から形成されており、かかる第1支持板6の周囲には、その右側部を除いて、平面視で逆コ字状の周壁部材46が設けられている。また、第1支持板6の長手方向に沿って第1支持板6の両側に配置される周壁部材46の内側下部には、スライド溝46Aが形成されている。このスライド溝46Aは、後述のキー支持板25を第1支持板6上でスライド可能に案内する。更に、図1における第1支持板6の左側端部の近傍位置に対応して、周壁部材46にはスライド凹部46Bが形成されている。かかるスライド凹部46Bは、後述するキー支持板25に配設されたスライド摘み25Aの移動範囲を規制する。また、第1支持板6の左側端縁に配設される周壁部材46には、その中央位置に切欠部46Cが形成されるとともに、切欠部46Cの両側には、挿通孔46Dが形成されている。ここに、切欠部46Cには、係合部材44の中央位置に形成された押圧部44Aが配置され、各挿通孔46Dには押圧部44Aの両側に形成された係合爪44Bが挿通される。

【0037】

尚、押圧部44Aは、後述する第2支持板9の周壁部材56に形成された係合部56Aに係合し、また、各係合爪44Bは、周壁部材56に形成された位置決め孔56Bに嵌合される。これにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とは、その折畳状態で、保持され得るものである。

【0038】

また、図1において、第1支持板6の右側には、その回動支点（ネジ孔28に遊嵌されたネジ29及びネジ受27）を中心とする回転半径に合致する円弧面38が形成されており、かかる円弧面38の略中央部には、第1ギア歯部43が形成されている。ここに、第1ギア歯部43は、後述する第2支持板9の円弧面48に形成された第2ギア歯部53と噛合している。従って、第1支持板6又は第2支持板9の一方を回動させると、第1ギア歯部43と第2ギア歯部53とが噛合していることに基づき、他方の第2支持板9又は第1支持板6も同期して回動する。これにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを、操作者が最も操作し易い角度に配置して、キーボード1の操作を行うことがで

き、人間工学的見地からも優れたキーボード1であるといえる。

【0039】

前記のように構成された第1支持板6上には、複数個のキースイッチ7を支持するキー支持板25が載置されている。かかるキー支持板25において、図1中左端部の近傍位置には、スライド摘み25Aが設けられており、このスライド摘み25Aは、前記周壁部材46のスライド凹部46B内に配置されており、スライド凹部46Bの長さの範囲内でスライド可能とされている。このようにスライド摘み25Aがスライド凹部46B内でスライドされると、キー支持板25は、周壁部材46のスライド溝46Bに沿ってスライドされる。また、キー支持板25の右側端部には、階段状に加工した階段状部25Bが設けられており、かかる階段状部25Bは、第2キーボードユニット4におけるキー支持板26の階段状部26Bに合致して嵌合するように構成されている。従って、前記のようにスライド摘み25Aを介してキー支持板25をスライドさせると、その階段状部25Bは、キー支持板26の階段状部26Bに嵌合される。

【0040】

また、キー支持板25上にはスイッチ支持板45が載置されており、かかるスイッチ支持板45においては、1つのキースイッチ7に対応して4個の係止部33がプレス加工等により一体形成されており、また、3層構造を有するメンブレンスイッチ（可動電極を有する上側シート、固定電極を有する下側シート及び上側シートと下側シートとの間に介挿され可動電極と固定電極とを離間させるスイッチング孔を有するスペーサシートからなる）が配置されている。尚、各係止部33は、メンブレンスイッチに形成された孔から上方へ突出されている。また、スイッチ支持板45の右側端部は、キー支持板25の階段状部25Bと同一形状に形成されている。

【0041】

ここに、キー支持板25上には、左手で操作される所定数のキースイッチ7が配設されている。尚、左手で操作されるキースイッチ7の数は、国際的に規格（ISO2126及びISO2530）に基づいて定められている。

【0042】

各キースイッチ 7 は、基本的に、キートップ 34、キートップ 34 の上下動を案内する一対のリンク部材 35、キートップ 34 を上方へ付勢するとともにメンブレンスイッチの可動電極と固定電極とからなるスイッチング部に対応してメンブレンスイッチ上に配置されたラバースプリング 36 から構成される。ここに、一対のリンク部材 35 の各上端部はキートップ 34 の下面に可動状態で連結され、また、各下端部は係止部 33 に可動状態で係止されている。非押下時にキートップ 34 はラバースプリング 36 の付勢力を介して上方へ付勢されて非押下位置に保持されており、ラバースプリング 36 の付勢力に抗してキートップ 34 を押下した際には、ラバースプリング 36 がメンブレンスイッチの可動電極を押圧してスペーサのスイッチング孔で固定電極に当接させ、これにより所定のスイッチング動作が行われる。前記したキースイッチ 7、キー支持板 25 及び第 1 支持板 6 は、第 1 キーユニット 37 を構成する。尚、キースイッチ 7 の構成については公知であり、ここでは詳細な説明は省略する。

【0043】

続いて、第 2 キーボードユニット 4 に配設されるキースイッチ 10 の構成について説明する。第 2 キーボードユニット 4 における第 2 支持板 9 はアルミ等の金属薄板から形成されており、かかる第 2 支持板 9 の周囲には、その左側部を除いて、平面視でコ字状の周壁部材 56 が設けられている。また、第 2 支持板 9 の右側端縁に配設される周壁部材 56 には、その中央位置に係合部 56A が形成されるとともに、係合部 56A の両側には、係合孔 56B が形成されている。係合部 56A には、前記したように、押圧部 44A が係合され、また、各係合孔 56B には、各係合爪 44B が嵌合される。これにより、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とは、その折畳状態で、保持され得るものである。

【0044】

また、図 1 において、第 2 支持板 9 の左側には、その回動支点（ネジ孔 31 に遊嵌されたネジ 32 及びネジ受部 30）を中心とする回転半径に合致する円弧面 48 が形成されており、かかる円弧面 48 の略中央部には、第 2 ギア歯部 53 が形成されている。ここに、前記したように、第 2 ギア歯部 53 は、第 1 支持板 6 の円弧面 38 に形成された第 1 ギア歯部 43 に嚙合しており、第 1 キーボードユ

ニット 3 と第 2 キーボード 4 とを相互に同期させつつ両キーボードユニット 3、4 を操作者にとって最も操作し易い角度に配置することができるものである。

【0045】

前記のように構成された第 2 支持板 9 上には、複数のキースイッチ 10 を支持するキー支持板 26 が載置されている。また、キー支持板 26 の左側端部には、階段状に加工した階段状部 26B が設けられており、かかる階段状部 26B は、前記したように、第 1 キーボードユニット 3 におけるキー支持板 25 の階段状部 25B に合致して嵌合するように構成されている。

【0046】

また、キー支持板 26 上にはスイッチ支持板 55 が載置されており、かかるスイッチ支持板 55 においては、1 つのキースイッチ 10 に対応して 4 個の係止部 33 がプレス加工等により一体形成されており、また、3 層構造を有するメンブレンスイッチ（可動電極を有する上側シート、固定電極を有する下側シート及び上側シートと下側シートとの間に介挿され可動電極と固定電極とを離間させるスイッチング孔を有するスペーサシートからなる）が配置されている。尚、各係止部 33 は、メンブレンスイッチに形成された孔から上方へ突出されている。また、スイッチ支持板 55 の左側端部は、キー支持板 26 の階段状部 26B と同一形状に形成されている。

【0047】

ここに、キー支持板 26 上には、右手で操作される所定数のキースイッチ 10 が配設されている。尚、右手で操作されるキースイッチ 10 の数は、国際的規格（ISO 2126 及び ISO 2530）に基づいて定められている。

【0048】

各キースイッチ 10 は、基本的に、キートップ 34、キートップ 34 の上下動を案内する一対のリンク部材 35、キートップ 34 を上方へ付勢するとともにメンブレンスイッチの可動電極と固定電極とからなるスイッチング部に対応してメンブレンスイッチ上に配置されたラバースプリング 36 から構成される。ここに、一対のリンク部材 35 の各上端部はキートップ 34 の下面に可動状態で連結され、また、各下端部は係止部 33 に可動状態で係止されている。非押下時にキー

トップ 34 はラバースプリング 36 の付勢力を介して上方へ付勢されて非押下位置に保持されており、ラバースプリング 36 の付勢力に抗してキートップ 34 を押下した際には、ラバースプリング 36 がメンブレンスイッチの可動電極を押圧してスペーサのスイッチング孔で固定電極に当接させ、これにより所定のスイッチング動作が行われる。前記したキースイッチ 10、キー支持板 26 及び第 2 支持板 9 は、第 2 キーユニット 47 を構成する。尚、キースイッチ 10 の構成については公知であり、ここでは詳細な説明は省略する。

【0049】

続いて、コネクタ部材 60 の支持構造及び支持部材 80、80 の支持構造について説明する。先ず、コネクタ部材 60 の支持構造について説明すると、図 2 に示されているように、コネクタ部材 60 における相互に対向する長手方向の側面には、それぞれ 2 つのリンク 67、67 がネジ 68 を介して回動可能に取り付けられている。各リンク 67 の下端には、ネジ 69 が挿通されて、ネジ 69 の軸 70 が外側に向かって延出されている。そして、各ネジ 69 の軸 70 は、それぞれコネクタ収納部 61 のネジ孔 62、コネクタ収納部 64 のネジ孔 65 に回動可能に支持される。

【0050】

これにより、コネクタ部材 60 は、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを折り畳んだ状態では、コネクタ収納部 61 とコネクタ収納部 64 との協働により、キーボード 1 の内部に収納されているが、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを回動させて折り畳み状態から開放していくと、コネクタ部材 60 は、両キーボードユニット 3、4 の開放動作に従って除々に立ち上がっていく。そして、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを水平状態にまで開放した時点においては、コネクタ部材 60 の中央部が略第 1 回動連結部 2A の上方に配置されるものである。

【0051】

次に、各支持部材 80 の支持構造について説明すると、図 2 に示すように、一方の支持部材 80（図 2 中左側の支持部材 80）の上端は、軸 81 を介して相互に回動可能に構成された連結板 82 の左側部 82A にカシメピン 83 により回動

可能に支持されており、また、他方の支持部材 80（図 2 中右側の支持部材 80）の上端は、連結板 82 の右側部 82B にカシメピン 84 により回動可能に支持されている。また、左側の支持部材 80 の下端は、第 2 キーボードユニット 4 の収納凹部 66 の内壁にネジ 85 を介して回動可能に支持されており、更に、右側の支持部材 80 の下端は、第 1 キーボードユニット 3 の収納凹部 63 の内壁にネジ 86 を介して回動可能に支持されている。

【0052】

これにより、各支持部材 80、80 は、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを折り畳んだ状態では、各収納凹部 63、66 の協働によりキーボード 1 の内部に折り畳まれた状態で収納されているが、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを回動させて折り畳み状態から開放していくと、各支持部材 80、80 は、両キーボードユニット 3、4 の開放動作に従って除々に開脚するとともに立ち上がっていく。そして、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを水平状態にまで開放した時点においては、図 5 に示すように、連結板 82 がコネクタ部材 60 の中央部上方に配置された状態で PDA 等の小型形態機器を支持可能となる。

【0053】

尚、前記コネクタ部材 60 の支持構造及び各支持部材 80、80 の支持構造については、本願出願人による特願 2002-350329 号の明細書及び図面に記載した構造と同一であるので、その詳細については特願 2002-350329 号の明細書及び図面を参照することとして、ここでは詳細な説明を省略する。

【0054】

続いて、前記のように構成されたキーボードにおいて、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 の回動動作を行う場合におけるリンク機構 90 及び蓋部材 100 の動作について説明する。

【0055】

先ず、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを完全に開放して両キーボードユニット 3、4 を水平状態にした当初においては、図 5 に示すように、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 は、通常の使用

状態に配置されている。操作者は、この状態でキーボード 1 を使用することかできる。

【0056】

かかる状態における蓋部材 100 部分を図 6 に拡大して示し、また、蓋部材 100 を省略してリンク機構 90 部分を図 7 に拡大して示す。図 6 に示す蓋部材 100 において、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の左端に位置しており、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の右端に位置している。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回動可能に連結する連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の上端に位置している。また、図 7 に示すように、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、水平状態で直線上に配置されている。

【0057】

また、図 6 に示す状態から、キースイッチ 7 と第 1 支持板 6 とからなる第 1 キーユニット 37、及び、キースイッチ 10 と第 2 支持板 9 とからなる第 2 キーユニット 47 を、それぞれ第 1 ベース板 5 及び第 2 ベース板 8 上で回動させると、図 8 に示すような状態となる。操作者は、所望なればこの状態でキーボード 1 を使用することができる。

【0058】

かかる状態における蓋部材 100 部分を拡大して図 9 に示す。図 9 において、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 は、図 5 及び図 6 に示す場合と同様、水平状態にされていることから、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の左端に位置しており、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の右端に位置している。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回動可能に連結する連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の上端に位置している。また、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、水平状態で直線上に配置されたままの状態を保持している。一方、第 1 キーユニット 37 と第 2 キーユニット 47 は、第 1 ギア歯部 43 及び第 2 ギア歯部 53 の噛合関係に基づき同期して回動されることから、かかる回動に従って、第 1 支持板 6 の円弧面 38 に形成された薄板部 38A は、蓋部材 100 の支持片 102 に形成された嵌合溝 1

30に嵌合されたまま手前側に摺動され、また、第2支持板9の円弧面48に形成された薄板部48Aは、支持片102に形成された嵌合溝131に嵌合されたまま手前側に摺動される。

【0059】

図9に示すように、第1キーユニット37と第2キーユニット47とが第1ベース板5及び第2ベース板8上で水平方向に回動されると、第1支持板6の円弧面38における薄板部38Aが支持片102の嵌合溝130に嵌合され、また、第2支持板9の円弧面48における薄板部48Aは嵌合溝131に嵌合されるので、かかる状態では第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを相互に折り畳むことはできない。これにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4が図5の状態から少しでも水平に回動されると、各キーボードユニット3、4が折り畳まれることはなく、換言すれば、各キーボードユニット3、4はその水平状態を確実に保持することができるので、机上以外の例えば膝の上で安定してキーボード1の操作を行うことができる。

【0060】

また、図5に示す状態から、キー支持板25のスライド摘み25Aを把持してスライド溝46B内でスライドさせると、キー支持板25は、その上に配設したキースイッチ7と共に図5中右方向にスライドすることができる。この状態が図10に示されている。このようにキー支持板25をスライドさせると、その階段状部25Bとキー支持板26の階段状部26Bとが嵌合されることから、キースイッチ7とキースイッチ10との間の隙間はなくなる。操作者は、所望なれば勿論この状態でキーボード1を使用することができる。

【0061】

尚、図10に示す状態では、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とは、共に水平状態を保持している点で前記図5に示す場合と同一であり、従って、蓋部材100やリンク機構90の状態は、図6に示す状態に保持されている。

【0062】

そして、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが水平状態

に保持された状態から各ユニット 3、4 が相互に重ね合わせた状態に至るまで折り畳んでいく場合について説明する。先ず、図 5 に示す状態から第 1 キーボードユニット 3 を水平状態にしたまま第 2 キーボードユニット 4 を若干折り畳むと、図 11 に示すように蓋部材 100 は第 2 キーボードユニット 4 の反時計方向の回転に従って同一方向に回転していく。このとき、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の左端から内側に若干移動した位置にあり、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の右端から若干内側に移動した位置にある。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回転可能に連結する連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の上端から若干下方に移動した位置にある。また、図 12 に示すように、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、略直線状態を保持しながら若干反時計方向に回転した位置にある。

【0063】

更に、第 2 キーボードユニット 4 が折り畳まれていき、略 90 度程度折り畳まれると、図 13 に示すような状態となる。この状態で蓋部材 100 は、図 13 に示すように、第 2 キーボードユニット 4 の反時計方向の回転に従って更に同一方向に回転していく。このとき、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の左端から内側に更に移動した位置にあり、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の右端から更に内側に移動した位置にある。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回転可能に連結する連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の上端から更に下方に移動した位置にある。また、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、直線状態から連結部材 97 を頂点として角度を減少しつつ折れ曲がっていく。

【0064】

第 2 キーボードユニット 4 が更に折り畳まれていくと、図 14 及び図 15 に示す状態となる。蓋部材 100 は、図 14 に示すように、第 2 キーボードユニット 4 の反時計方向の回転に従って更に同一方向に回転していく。このとき、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の左端よりも右端側に移動した位置にあり、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の右端よりも左端端側に移動した位置にある。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回転可能に連結する

連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の上端よりも下端側に移動した位置にある。また、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、図 15 に示すように、連結部材 97 を頂点として角度を更に減少しつつ折れ曲がっていく。

【0065】

そして、第 2 キーボード 4 が第 1 キーボードユニット 3 に重ね合わされて、図 16 に示すように完全に折り畳まれると、蓋部材 100 は、図 6 に示す状態から図 17 に示すように 90 度回転された状態になる。このとき、支持ネジ 123 は第 1 長孔 117 の右端に位置しており、また、支持ネジ 125 は第 2 長孔 118 の左端に位置している。また、リンク機構 90 を構成するリンク 93 とリンク 96 とを回転可能に連結する連結部材 97 の突起 99 は、第 3 長孔 119 の下端に位置している。また、リンク機構 90 におけるリンク 93 とリンク 96 は、図 18 に示すように、連結部材 97 を頂点として角度を更に減少しつつ折れ曲がった状態にある。

【0066】

以上説明した通り、本実施形態に係るキーボード 1 では、蓋部材 100 におけるカバー部 101 のカバー板 104 における両端縁に形成された一对の各支持片 102、103 のそれぞれに第 1 長孔 117 及び第 2 長孔 118 を形成し、支持ネジ 123 を第 1 長孔 117 に遊嵌させつつ第 1 キーボードユニット 3 の隅部 12B に形成された軸受部材 13 の軸受孔 13A に支持し、且つ、支持ネジ 124 を第 1 長孔 117 に遊嵌させつつ隅部 12A に形成された第 1 ベース板 5 の支持孔 121 に軸支固定し、また、支持ネジ 125 を第 2 長孔 118 に遊嵌させつつ第 2 キーボードユニット 4 の隅部 16B に形成された軸受部材 17 の軸受孔 17A に支持し、且つ、支持ネジ 126 を第 2 長孔 118 に遊嵌させつつ隅部 16A に形成された第 2 ベース板 8 の支持孔 120 に軸支固定し、これにより支持ネジ 123、124 と第 1 長孔 117 及び支持ネジ 125、126 と第 2 長孔 118 の協働作用を介して、蓋部材 100 が、第 1 及び第 2 キーボードユニット 3、4 の回転動作に従って回転されるとともに、両ユニット 3、4 が重ね合わされた状態で蓋部材 100 のカバー部 101 が両ユニット 3、4 の端面を被覆し、且つ、蓋部材 100 の各支持片 102、103 が両ユニット 3、4 の端面側部を被覆す

るように構成したので、両ユニット 3、4 の端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを防止することが可能であるとともに見栄えを極めて良好にすることができる。

【0067】

また、第 1 キーボードユニット 3 及び第 2 キーボードユニット 4 が水平状態から重ね合わせた状態に至る間、蓋部材 100 のカバー部 101 が両ユニット 3、4 の端面を被覆するとともに、蓋部材 100 の各支持片 102、103 は両ユニット 3、4 の端面側部を被覆するので、キーボード 1 の使用時、キーボード 1 を折り畳んでいる中、及び、キーボード 1 の非使用時にキーボード 1 を折り畳んで携帯する時のいずれの場合においても、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 の端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを確実に防止することが可能となる。

【0068】

更に、蓋部材 100 の支持片 102 における第 1 長孔 117 に遊嵌される支持ネジ 123 にリンク 93 を回動可能に支持するとともに、蓋部材 100 の支持片 102 における第 2 長孔 118 に遊嵌される支持ネジ 125 にリンク 96 を回動可能に支持し、リンク 93 とリンク 96 とを連結部材 97 の連結軸 98 で相互に回動可能に連結しているので、支持ネジ 123 と第 1 長孔 117 及び支持ネジ 125 と第 2 長孔 118 の協働作用に基づき蓋部材 100 の回動動作を行うについて、リンク 93 及びリンク 96 のリンク作用を利用して蓋部材 100 の回動動作を円滑に行うことができる。これにより、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを、相互に安定して回動させることができる。

【0069】

また、リンク 93 とリンク 96 とを回動可能に連結する連結部材 97 の連結軸 98 に形成された突起 99 を、支持片 102 に形成され第 1 長孔 117 及び第 2 長孔 118 に対して直角な方向に配置された第 3 長孔 119 内を摺動可能に構成したので、第 1 キーボードユニット 3 及び第 2 キーボードユニット 4 の回動動作の途中においても、連結部材 97 の突起 99 は第 3 長孔 119 に沿って摺動されることから、両ユニット 3、4 は第 3 長孔 119 を基準として対称に回動される

こととなり、従って、両ユニット 3、4 の回動動作を安定して行うことができる。

【0070】

更に、リンク機構 90 において、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを水平状態に開放している場合には、図 7 に示すように、リンク 93 とリンク 96 とを連結する連結部材 97 の連結軸 98 を回動軸 19 の位置よりも下方に位置するように構成し、また、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを折り畳んだ場合には、図 1.8 に示すように、連結部材 97 の連結軸 98 を回動軸 19 の位置に略一致する位置に配置するように構成したので、キーボード 1 の手前側で回動軸 19 の軸受 14 B、18 B のように上方に膨出させる必要がなくなり、キーボード 1 の操作を容易に行うことができる。

【0071】

また、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 は、図 8 に基づき説明したように、水平状態にされている場合にそれぞれ第 1 ベース板 5、第 2 ベース板 8 上で水平方向に回動することが可能であるが、両キーボード 3、4 が水平状態以外にある場合には、回動することを禁止している。これにつき図 19 に基づき説明する。

【0072】

図 19 において、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とが重ね合わされて折り畳まれている状態では、第 1 支持板 6 の円弧面 38 に形成された薄板部 38 A、及び、第 2 支持板 9 の円弧面 48 に形成された薄板部 48 A は、図 19 (A) に示すように、蓋部材 100 の支持片 102 に当接しており、従って、各キーボードユニット 3、4 は回動することが禁止されている。また、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 が折畳状態から水平状態に至るまでの間は、図 19 (B) に示すように、薄板部 38 A 及び 48 A は、蓋部材 100 の支持片 102 に当接し、更に、各キーボードユニット 3、4 の一部も支持片 102 に当接している。従って、この場合においても、各キーボードユニット 3、4 は回動することが禁止されている。また、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とが、完全に開放されて水平状態にされた場合に

は、図19(C)に示すように、薄板部38A及び48Aは、支持片102に形成された嵌合溝130、131に合致することとなるので、かかる状態においては各キーボードユニット3、4は、それぞれ第1ベース板5、第2ベース板8上で回転することができる。

【0073】

これよりすれば、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4が、重ね合わされて折り畳まれた状態、その折り畳まれた状態から水平状態に至るまでの状態の間においては、各キーボードユニット3、4が、それぞれ第1ベース板5、第2ベース板8上で回転することが禁止され、従って、例えば、キーボードを折り畳んで携帯している間に各キーボードユニット3、4が回転して外部にはみ出してしまふことを確実に防止することができる。

【0074】

また、キーボード1を折り畳んだ際、第1支持板6の円弧面に形成されている第1ギア歯部43と第2支持板9の円弧面に形成されている第2ギア歯部53との間の噛合は外れるように構成されているが、キーボード1を折り畳んだ状態で第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが相互に回転してしまうことはなく、従って、各キーボードユニット3、4を開放して水平状態にした際には、第1ギア歯部43と第2ギア歯部53とを、適正な噛合関係をもって再度噛合させることができる。

【0075】

次に、蓋部材100に設けられた安定部材110の作用について、図20乃至図22に基づき説明する。図20は第1キーボードユニットと第2キーボードユニットを水平状態に開放して裏面側から示す説明図であり、かかる状態では、安定部材110は蓋部材100のカバー部101内に収納されている。

【0076】

安定部材110を使用するには、図21及び図22に示すように、安定部材110のコ字状部をキーボード1の外側に引き出す。このとき、安定部材110の軸部111、112は、カバー板104の支持部106、107の摺動孔108、109を摺動してストッパリング115、116が摺動孔108、109の端

部に当接されるまで外側に引き出される。

【0077】

前記したように、非使用時には蓋部材100のカバー部101内に収納しておき、使用時にはキーボードの外部に引出可能に構成された安定部材110が設けられているので、安定部材110を使用することにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを水平状態にしてキーボード1を使用する際に、前記した各支持部材80、80を起立状態にしてPDA等の小型携帯機器を支持することに起因して、小型携帯機器の重量により各第1キーボードユニット3、第2キーボードユニット4の底面がその設置面から離間してしまうことを防止してキーボード1の安定化を図ることができるものである。

【0078】

尚、本発明は前記実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内で種々の改良、変形が可能であることは勿論である。

【0079】

例えば、前記実施形態においては、第1キーユニット37と第2キーユニット47とが第1ベース板5及び第2ベース板8上で水平方向に回転されると、第1支持板6の円弧面38における薄板部38Aが支持片102の嵌合溝130に嵌合され、また、第2支持板9の円弧面48における薄板部48Aは嵌合溝131に嵌合されるように構成し、かかる状態では第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを相互に折り畳むことを不可能として各キーボードユニット3、4の水平状態を確実に保持することを可能としていたが、これに限定されることなく、例えば、図23及び図24に示すように、蓋部材100の支持片103にて一对の弾性係止爪150を一体に形成しておき、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが水平状態にある場合（図23に示す場合）には、弾性係止爪150の爪部151が、第1支持板6における周壁部材46の背壁、及び、第2支持9における周壁部材56の背壁に当接するようにし、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4をそれぞれ第1ベース板5、第2ベース板8上で回転させた場合（図24に示す場合）には、その回転に伴い第1ベース板5の枠部23と周壁46との間に発生する段差部、及び、第2ベース板

8の枠部24と周壁56との間に発生する段差部に弾性係止爪150の爪部151を係止するように構成してもよい。このように構成することにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とがそれぞれ第1ベース板5、第2ベース板8上で回転した後には、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを相互に折り畳むことを不可能として各キーボードユニット3、4の水平状態を確実に保持することができる。

【0080】

また、前記実施形態では、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とが水平状態以外の状態にある場合、例えば、両キーボードユニット3、4が折り畳まれた状態、その折り畳まれた状態から水平状態に至るまでの状態である場合には、第1支持板6の円弧面38に形成された薄板部38A、及び、第2支持板9の円弧面48に形成された薄板部48Aが、蓋部材100の支持片102に当接するように構成し、各キーボードユニット3、4が、それぞれ第1ベース板5、第2ベース板8上で回転することを禁止するように構成されているが、これに限定されることなく、図25乃至図30に示す変形例のように構成してもよい。

【0081】

変形例においては、例えば、図25及び図26に示すように、第1キーボードユニット3の第1支持板6に設けられた周壁部材46の背面に、及び、第2キーボードユニット4の第2支持板9に設けられた周壁部材56の背面に、開口160を有する凹部161が形成され、また、その凹部161に連続して凹部161よりも回転軸19側に長く形成された摺動ロック溝162とその摺動ロック溝162の下方で各キーボードユニット3、4の端面（回転軸19側端面）まで延出された摺動溝163（各キーボードユニット3、4の端面で開口されている）とが一体に形成されている。

【0082】

そして、摺動ロック溝162及び摺動溝163には、摺動ロック部材164が摺動可能に遊嵌されている。即ち、摺動ロック部材164は、摺動ロック溝162内で摺動可能に配置されるロック突起165A、及び、摺動溝163内を摺動

されるとともにロック突起 165A に連続する摺動軸 165B が一体に形成されてなる。また、第 1 キーボードユニット 3 側で、摺動ロック溝 162 の右端面とロック突起 165A の右端面との間には押圧バネ 166 が介挿されており、また同様に、第 2 キーボードユニット 4 側で、摺動ロック溝 162 の左端面とロック突起 165A の左端面との間には押圧バネ 166 が介挿されている。

【0083】

前記構成において、先ず、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とが水平状態にされている場合には、図 25、図 26 に示すように、各摺動ロック部材 164 における摺動軸 165B の端面相互は、各キーボードユニット 3、4 の端面位置で当接しており、また、ロック突起 165A は押圧バネ 166 を介して各摺動軸 165B の端面が当接する方向に付勢されている。かかる状態において、各ロック突起 165A は凹部 161 の開口 160 に対応する位置に存在している。

【0084】

前記のように第 1 キーボードユニット 3 及び第 2 キーボードユニット 4 を水平にした状態で、第 1 キーボードユニット 3 の第 1 キーユニット 37 を第 1 ベース板 5 上で回転させ、且つ、第 2 キーボードユニット 4 の第 2 キーユニット 47 を第 2 ベース板 8 上で回転させると、図 27 及び図 28 に示すように、摺動ロック部材 164 のロック突起 165A は、凹部 161 の開口 160 から外部に露出する。このように、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とが水平状態にある場合には、第 1 キーユニット 37 及び第 2 キーユニット 47 を回転させることができる。

【0085】

これに対して、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とを折り畳み始めると、図 29 及び図 30 に示すように、各摺動ロック部材 164 のロック突起 165A は、押圧バネ 166 を介して、それぞれ回転軸 19 側に向かって押圧されていることから、ロック突起 165A は摺動ロック溝 162 内を回転軸 19 側に摺動するとともに、摺動軸 165B も同様に摺動溝 163 内を回転軸 19 側に摺動してその端部がそれぞれ第 1 キーボードユニット 3、第 2 キーボー

ドユニット 4 の端面から露出する。

【0086】

このように各摺動ロック部材 164 が回転軸 19 側に摺動されると、図 29 及び図 30 に示すように、一方のロック突起 165A は、第 1 キーボードユニット 3 側で摺動ロック溝 162 の左端面に当接してロックされ、また、他方のロック突起 165A は、第 2 キーボードユニット 4 側で摺動ロック溝 162 の右端面に当接してロックされる。従って、前記のように構成された変形例においては、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 とが水平状態以外の状態にある場合には、第 1 キーユニット 37 及び第 2 キーユニット 47 が、それぞれ第 1 ベース板 5、第 2 ベース板 8 上で回転することを禁止することができる。

【0087】

これよりすれば、第 1 キーボードユニット 3 と第 2 キーボードユニット 4 が、重ね合わされて折り畳まれた状態、その折り畳まれた状態から水平状態に至るまでの状態の間においては、各キーボードユニット 3、4 における第 1 キーユニット 37、第 2 キーユニット 47 が、それぞれ第 1 ベース板 5、第 2 ベース板 8 上で回転することが禁止され、従って、例えば、キーボードを折り畳んで携帯している間に各キーボードユニット 3、4 が回転して外部にはみ出してしまうことを確実に防止することができる。

【0088】

【発明の効果】

以上説明した通り請求項 1 に係るキーボードでは、蓋部材のカバー部にて、前記回転軸の軸方向に沿って第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引出可能に配設されたキーボード安定部材を設け、かかるキーボード安定部材は、前記機器支持部材に機器が支持されている際に、第 1 キーボードユニット及び第 2 キーボードユニットの外側まで引き出されて、両ユニットの底面がその設置面から離間することを防止するので、機器支持部材に PDA 等の小型携帯機器を支持した場合においても、安定してキーボードの操作を行うことができる。また、蓋部材が、第 1 及び第 2 キーボードユニットの回転動作に従って回転されるとともに、両ユニットが重ね合わされた状態で蓋部材のカバー部が両ユ

ニットの端面を被覆し、且つ、蓋部材の各支持片が両ユニットの端面側部を被覆するように構成したので、両ユニットの端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを防止することが可能であるとともに見栄えを極めて良好にすることができる。

【0089】

また、請求項2に係る折畳可能なキーボードでは、蓋部材におけるカバー部に形成された一対の各支持片のそれぞれに第1長孔及び第2長孔を形成し、第1支持軸を第1長孔に遊嵌させつつ第1キーボードユニットの隅部に形成された各第1支持部に支持するとともに、第2支持軸を第2長孔に遊嵌させつつ第2キーボードユニットの隅部に形成された各第2支持部に支持し、これにより第1支持軸と第1長孔及び第2支持軸と第2長孔の協働作用を介して、蓋部材が、第1及び第2キーボードユニットの回動動作に従って回動されるとともに、両ユニットが重ね合わされた状態で蓋部材のカバー部が両ユニットの端面を被覆し、且つ、蓋部材の各支持片が両ユニットの端面側部を被覆するように構成したので、両ユニットの端面及び端面側部の双方から塵埃、水滴等が侵入することを防止することが可能であるとともに見栄えを極めて良好にすることができる。

【0090】

更に、請求項3に係る折畳可能なキーボードでは、蓋部材の支持片における第1長孔に遊嵌される第1支持軸に第1リンクを回動可能に支持するとともに、蓋部材の支持片における第2長孔に遊嵌される第2支持軸に第2リンクを回動可能に支持し、第1リンクと第2リンクとを連結軸で相互に回動可能に連結しているので、第1支持軸と第1長孔及び第2支持軸と第2長孔の協働作用に基づき蓋部材の回動動作を行うについて、第1リンク及び第2リンクのリンク作用を利用して蓋部材の回動動作を円滑に行うことができる。これにより、第1キーボードユニットと第2キーボードユニットとを、相互に安定して回動させることができる。

【0091】

また、請求項4に係る折畳可能なキーボードでは、第1リンクと第2リンクとを回動可能に連結する連結軸に形成された突起を、支持片に形成され第1長孔及

び第2長孔に対して直角な方向に配置された第3長孔内を摺動可能に構成したので、第1キーボードユニット及び第2キーボードユニットの回動動作の途中においても、連結軸の突起は対3長孔に沿って摺動されることから、両ユニットは第3長孔を基準として対称に回動されることとなり、従って、両ユニットの回動動作を安定して行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

折畳可能なキーボードを正面側から見て模式的に示す分解斜視図である。

【図2】

折畳可能なキーボードを背面側から見て模式的に示す分解斜視図である。

【図3】

リンク機構を拡大して示す説明図である。

【図4】

蓋部材を拡大して示す説明図である。

【図5】

第1キーボードユニットと第2キーボードユニットを水平状態に開放したキーボードの使用状態を示す斜視図である。

【図6】

図5における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図7】

図6における蓋部材を取り除いて拡大して示すリンク機構の説明図である。

【図8】

第1キーボードユニットと第2キーボードユニットを第1ベース板及び第2ベース板上で回動させた状態を示す斜視図である。

【図9】

図8における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図10】

図5に示す状態から第1キーボードユニットにおけるキー支持板をスライドさせた状態を示す斜視図である。

【図 1 1】

図 5 に示す状態から第 2 キーボードユニットを若干折り畳んだ状態における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図 1 2】

図 1 1 の状態から更に第 2 キーボードユニットを折り畳んだ状態におけるリンク機構を拡大して示す説明図である。

【図 1 3】

図 1 2 の状態から更に第 2 キーボードユニットを折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図 1 4】

図 1 3 の状態から更に第 2 キーボードユニットを折り畳んだ状態における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図 1 5】

図 1 4 における蓋部材を取り除いて拡大して示すリンク機構の説明図である。

【図 1 6】

第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットを完全に折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図 1 7】

図 1 6 における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図 1 8】

図 1 7 における蓋部材を取り除いて拡大して示すリンク機構の説明図である。

【図 1 9】

第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットを折り畳んだ状態から水平状態に至るまでの動作を模式的に示す説明図である。

【図 2 0】

図 5 の状態をキーボードの底面側から見て示す説明図である。

【図 2 1】

図 2 0 の状態において安定部材を引き出した状態を示す説明図である。

【図 2 2】

図 20 の状態をキーボードの側面から見て示す説明図である。

【図 23】

変形例における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図 24】

変形例における蓋部材部分を拡大して示す説明図である。

【図 25】

他の変形例において第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットが水平状態にあるキーボードの背面部分を拡大して示す説明図である。

【図 26】

図 25 の状態を一部破断して平面視で示す説明図である。

【図 27】

図 25 の変形例において第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットを回動させた状態にあるキーボードの背面部分を拡大して示す説明図である。

【図 28】

図 27 の状態を一部破断して平面視で示す説明図である。

【図 29】

第 1 キーボードユニットと第 2 キーボードユニットを若干折り畳んだ後に各キーボードユニットの回動を禁止する状態につきキーボードの背面部分を拡大して示す説明図である。

【図 30】

図 29 に対応する第 1 キーボードユニットの一部のみを平面視で示す説明図である。

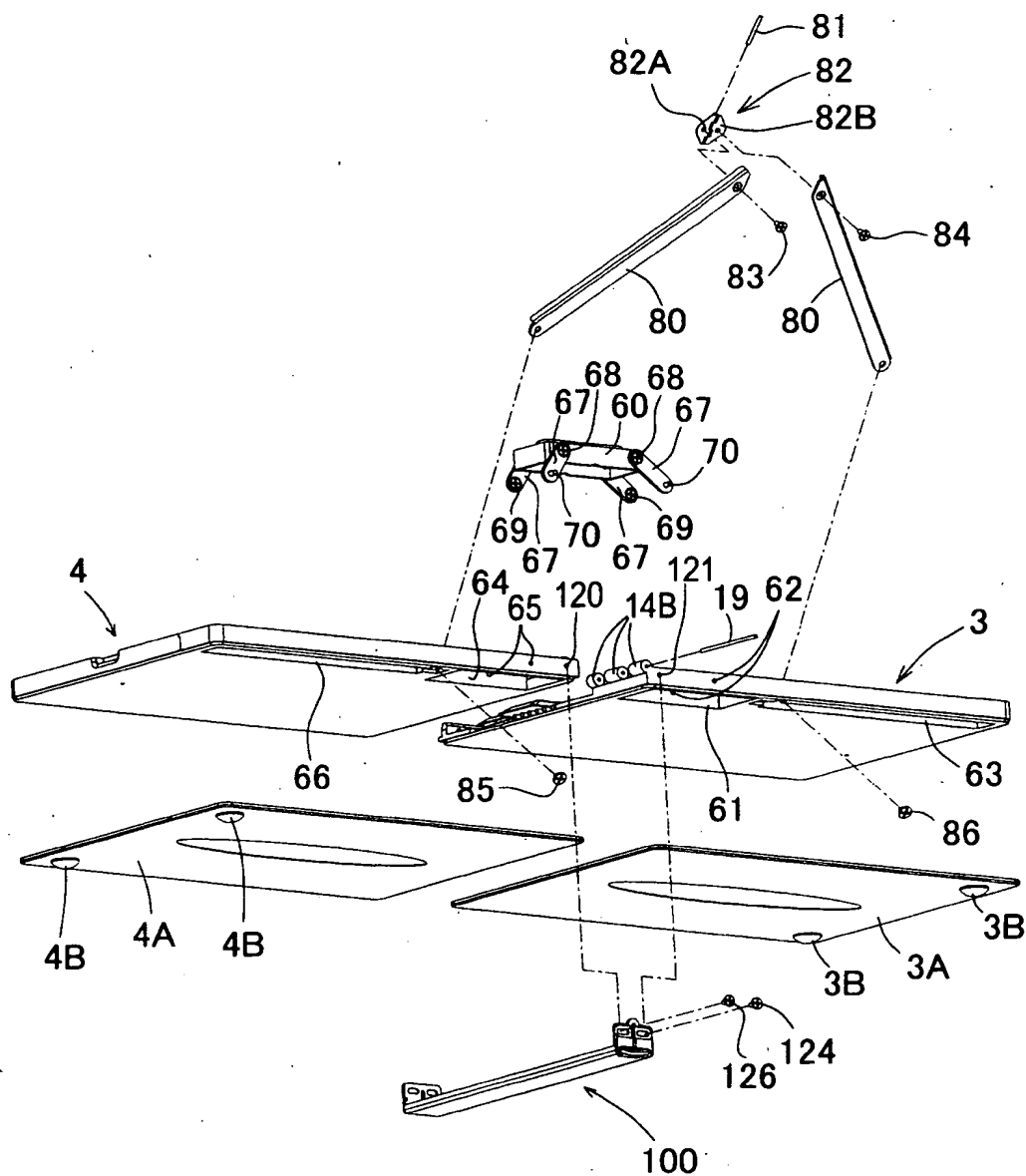
【符号の説明】

1	キーボード
2 A	第 1 回動連結部
2 B	第 2 回動連結部
3	第 1 キーボードユニット
4	第 2 キーボードユニット
5	第 1 ベース板

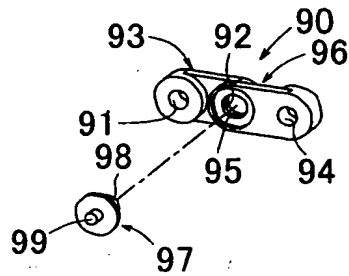
6	第1支持板
7	キースイッチ
8	第2ベース板
9	第2支持板
10	キースイッチ
13、14	軸受部材
17、18	軸受部材
19	回転軸
25、26	キー支持板
27	ネジ受部
28	ネジ孔
29	ネジ
30	ネジ受部
31	ネジ孔
32	ネジ
34	キートップ
35	リンク部材
36	ラバースプリング
37	第1キーユニット
38	円弧面
38A	薄板部
43	第1ギア歯部
47	第2キーユニット
48	円弧面
48A	薄板部
60	コネクタ部材
80	支持部材
90	リンク機構
91	支持孔

9 2	連結孔
9 3	リンク
9 4	支持孔
9 5	連結孔
9 6	リンク
9 7	連結部材
9 8	連結軸
9 9	突起
1 0 0	蓋部材
1 0 1	カバー部
1 0 2	支持片
1 0 3	支持片
1 0 4	カバー板
1 1 0	安定部材
1 1 7	第 1 長孔
1 1 8	第 2 長孔
1 1 9	第 3 長孔
1 2 0	支持孔
1 2 1	支持孔
1 2 3	支持ネジ
1 2 4	支持ネジ
1 2 5	支持ネジ
1 2 6	支持ネジ
1 3 0	嵌合溝
1 3 1	嵌合溝

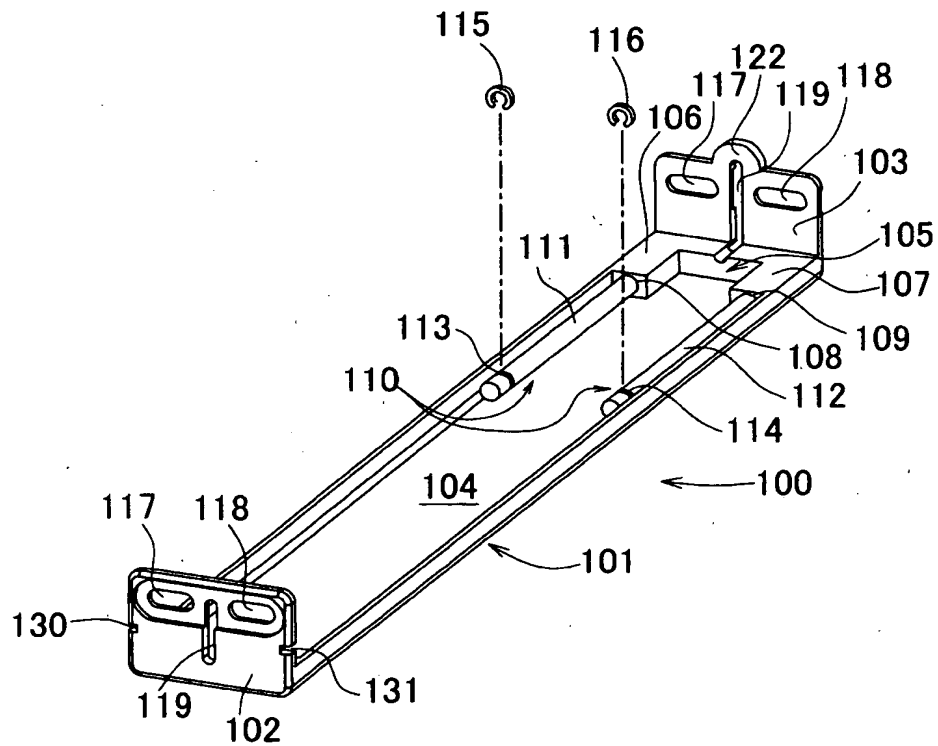
【図 2】



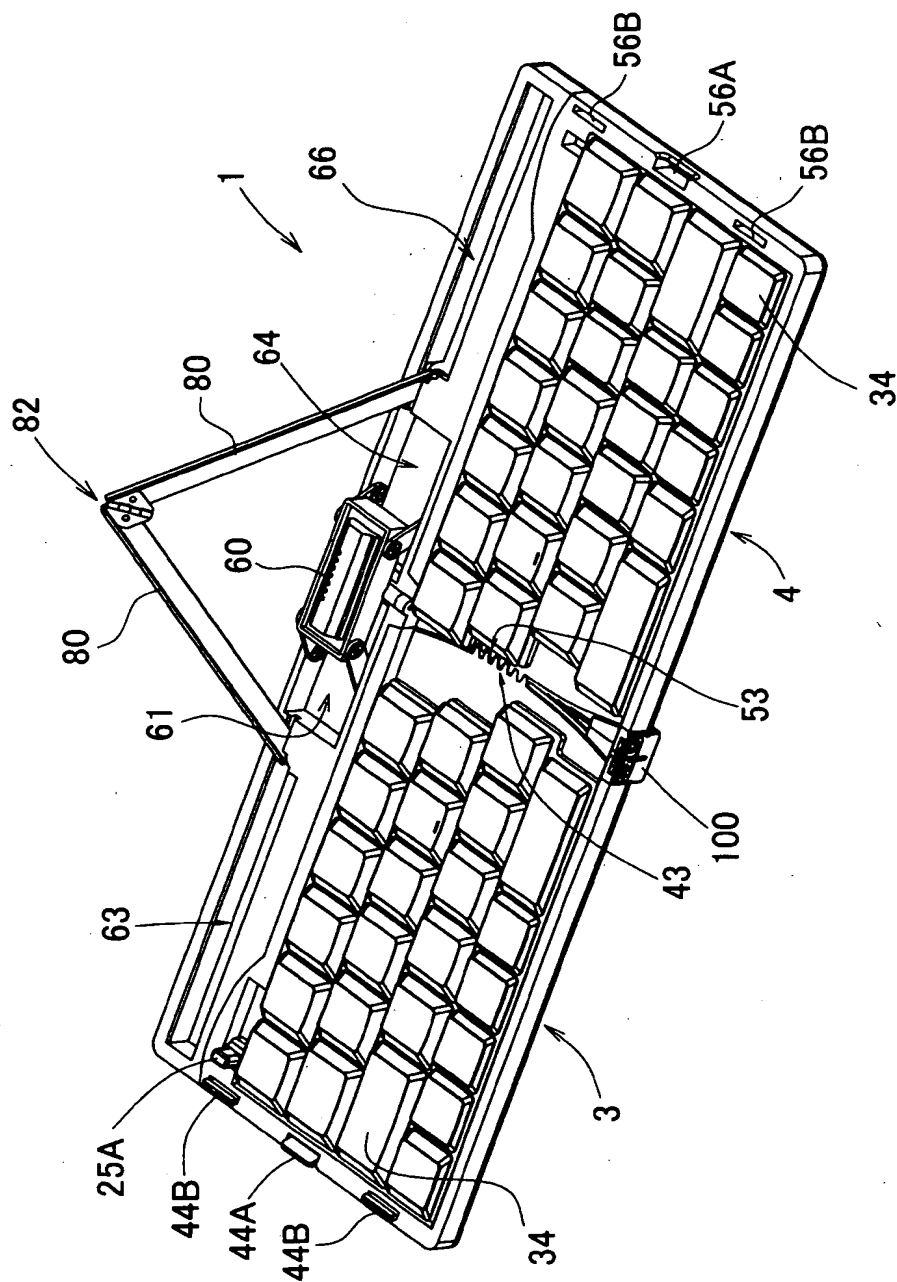
【図 3】



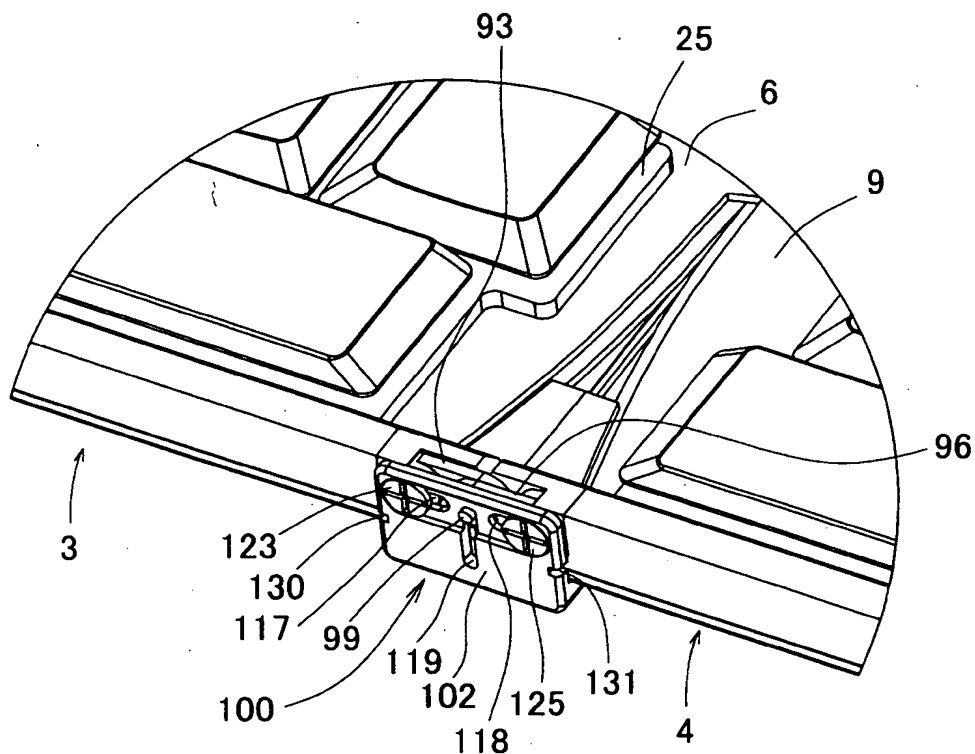
【図 4】



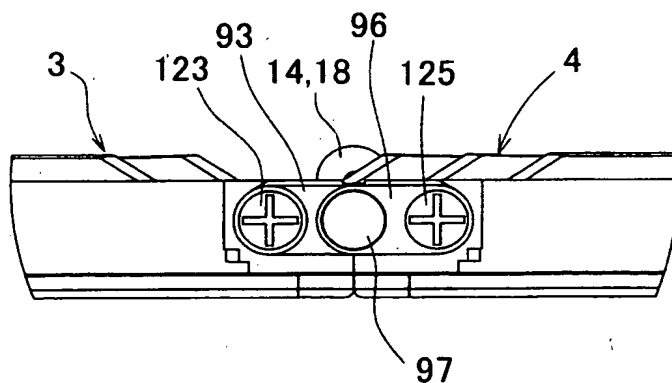
【図 5】



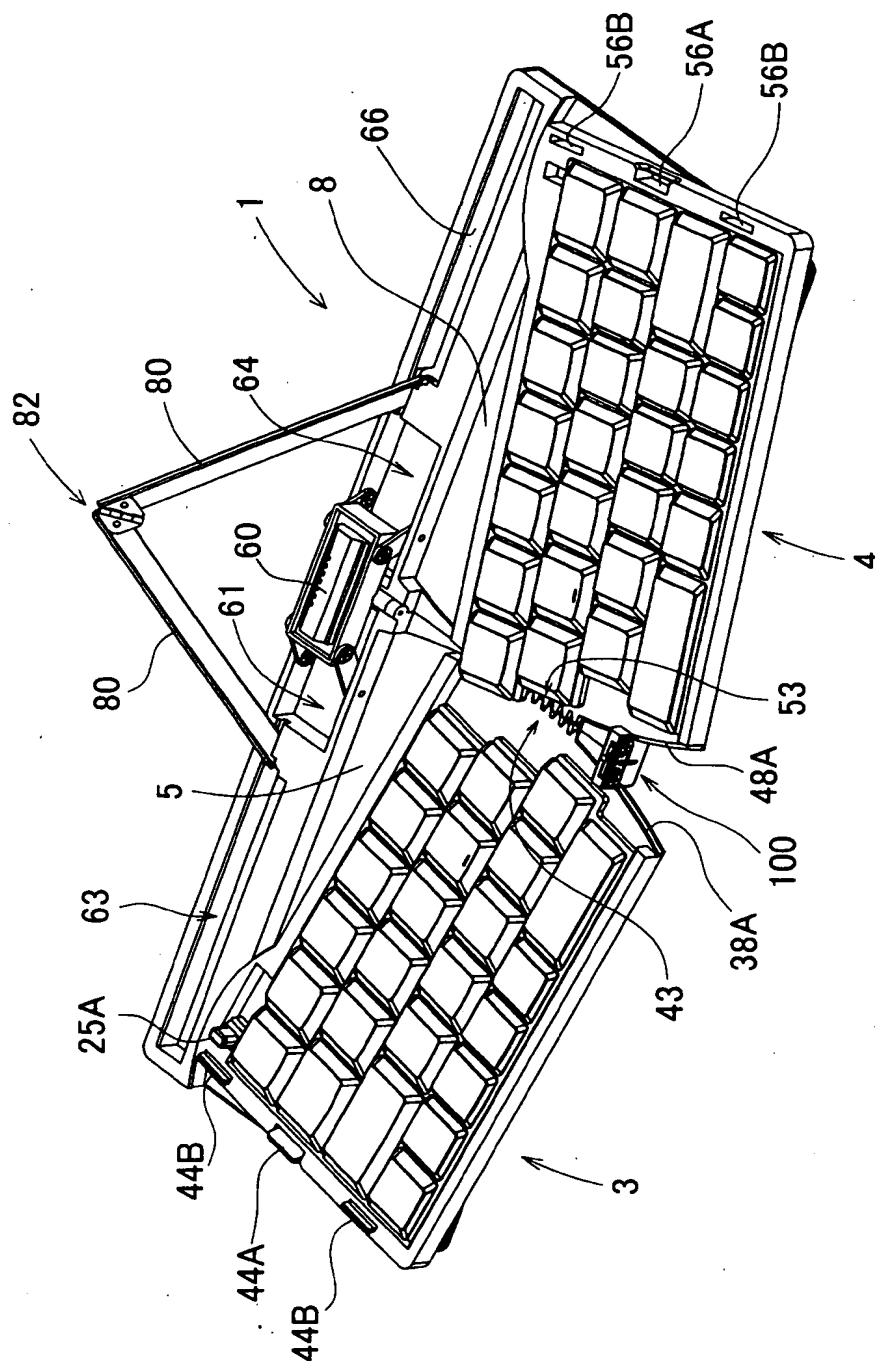
【図 6】



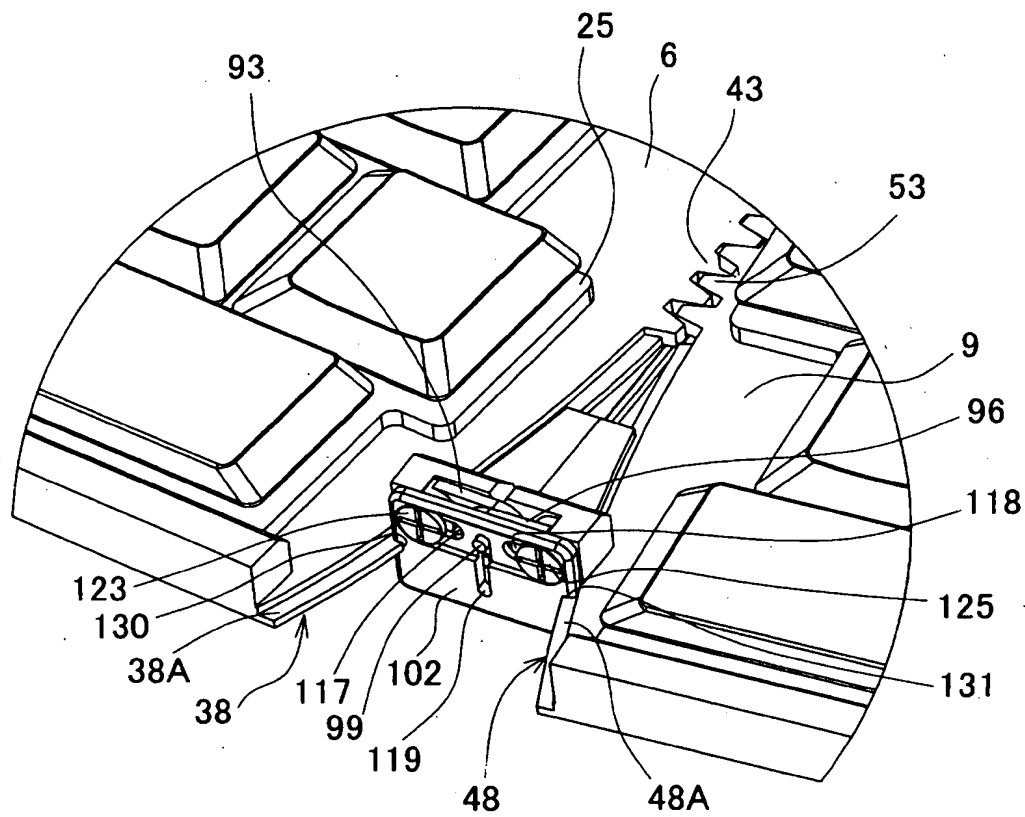
【図 7】



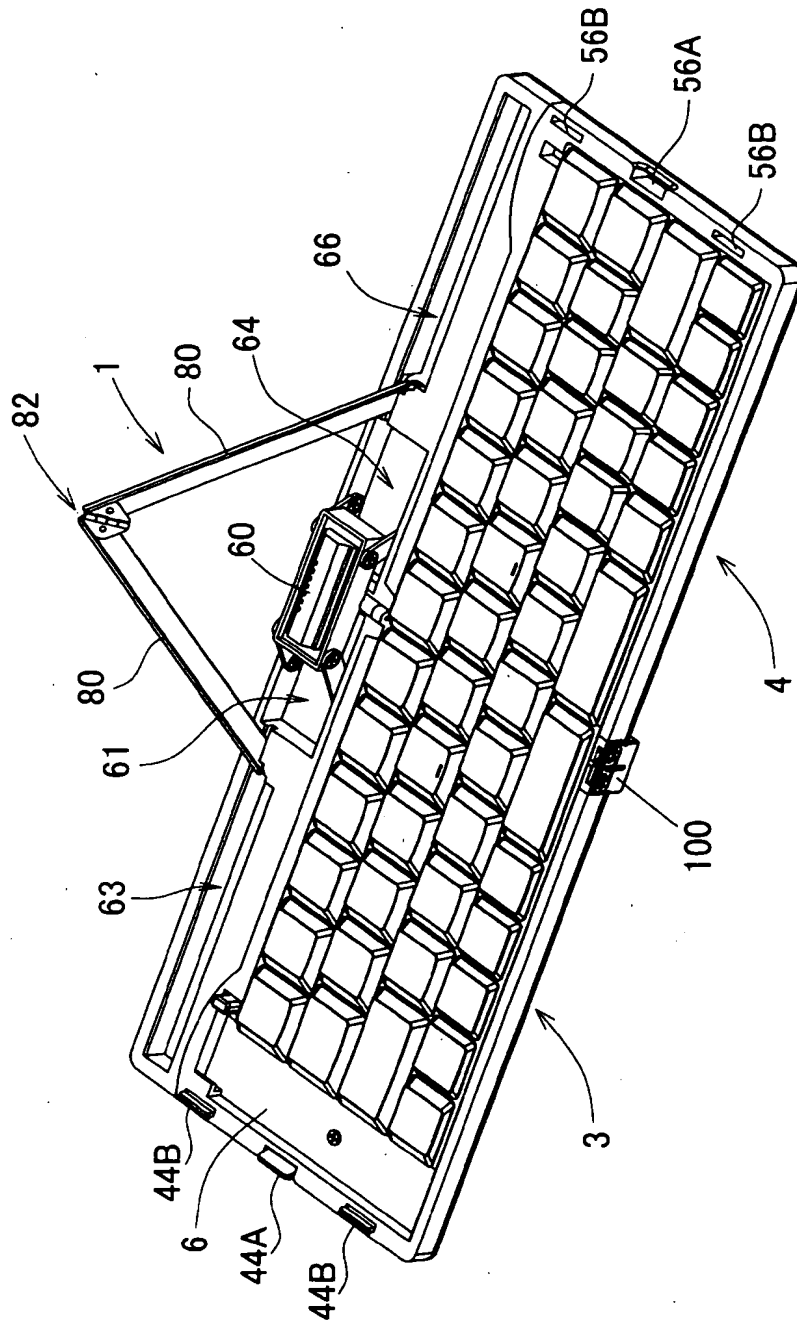
【図 8】



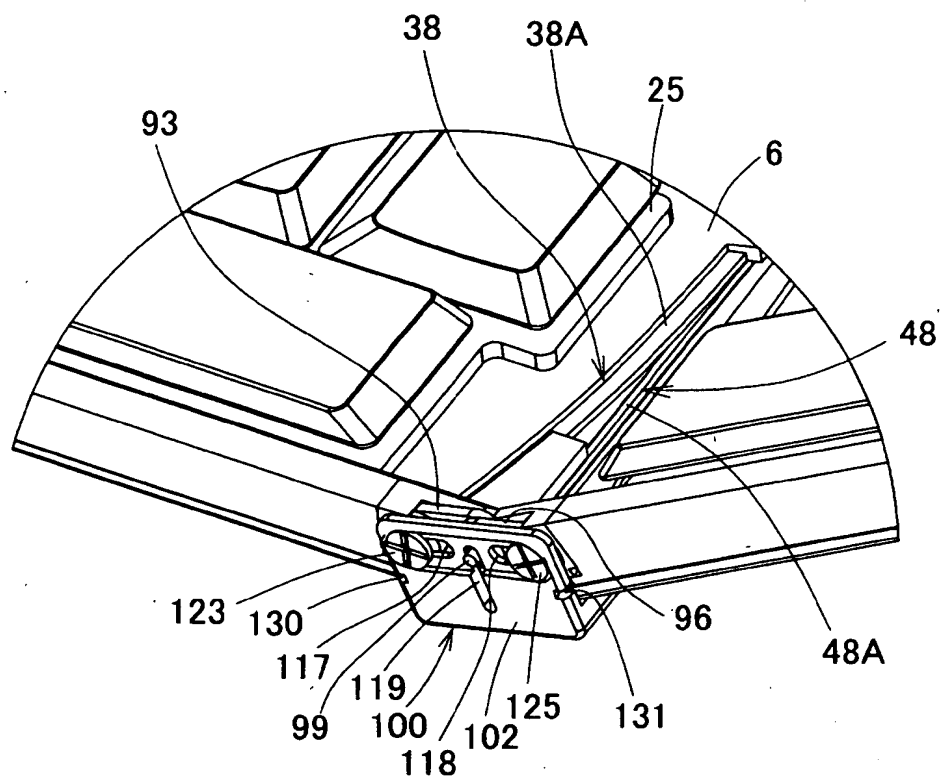
【図 9】



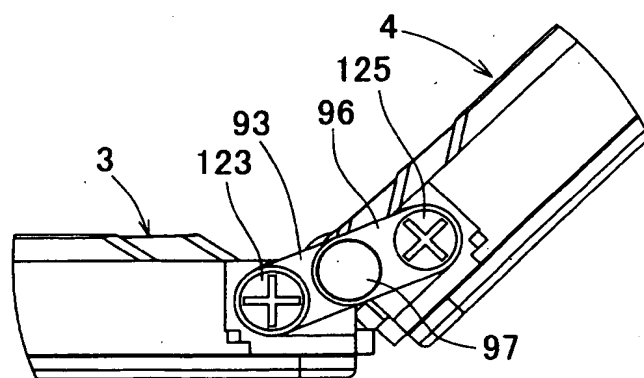
【図 10】



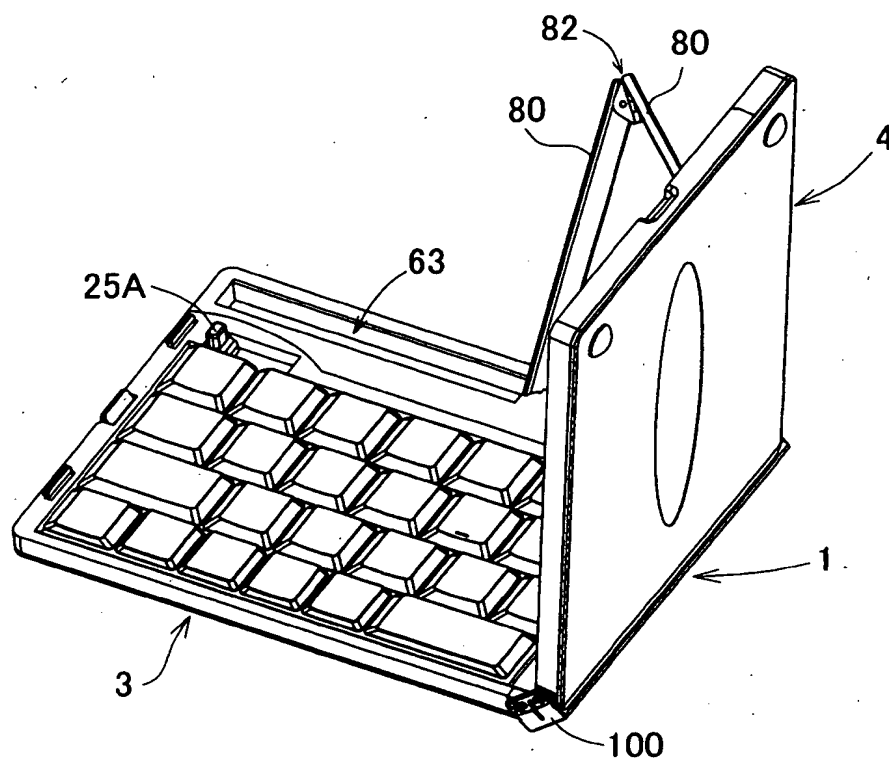
【図 11】



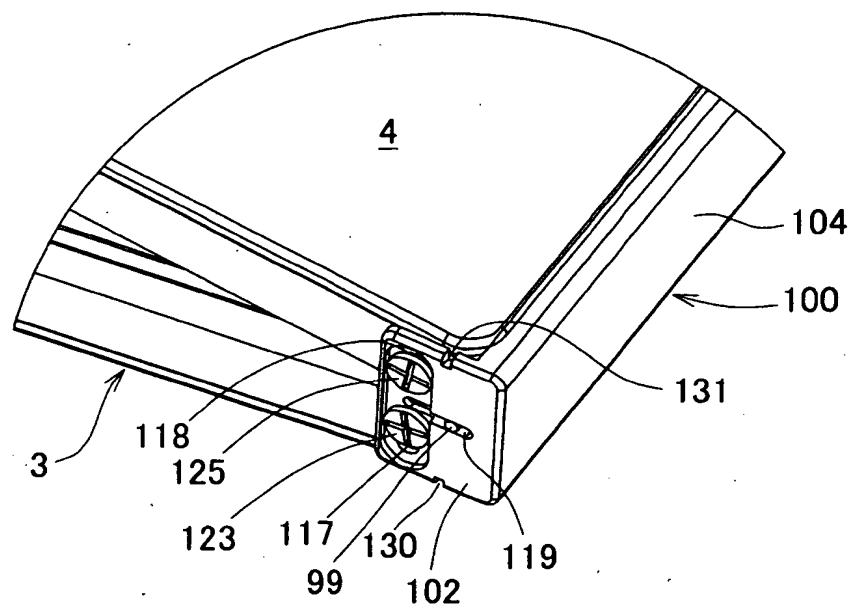
【図 12】



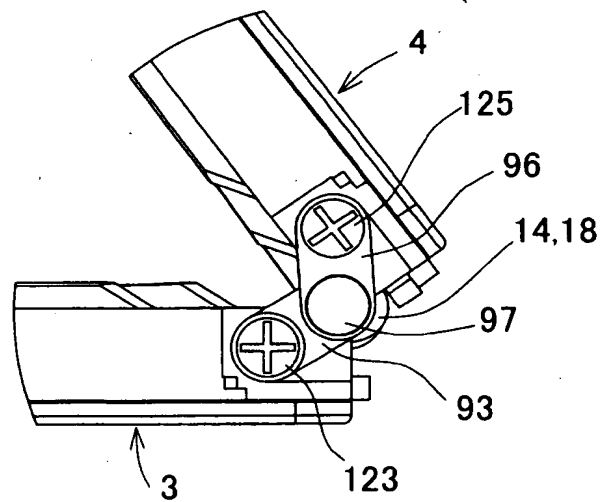
【図 13】



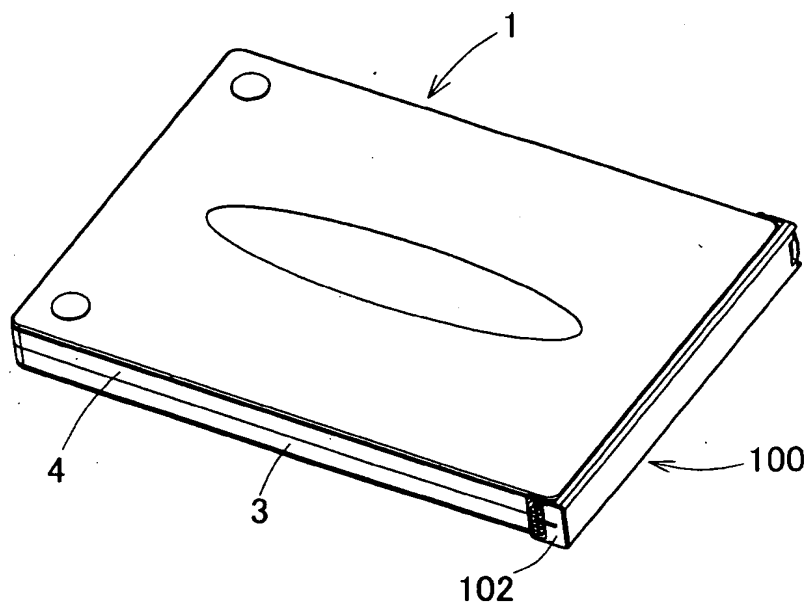
【図 14】



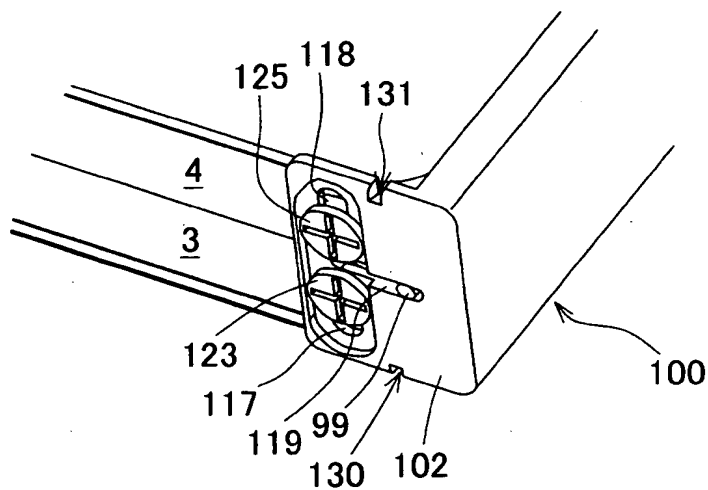
【図 15】



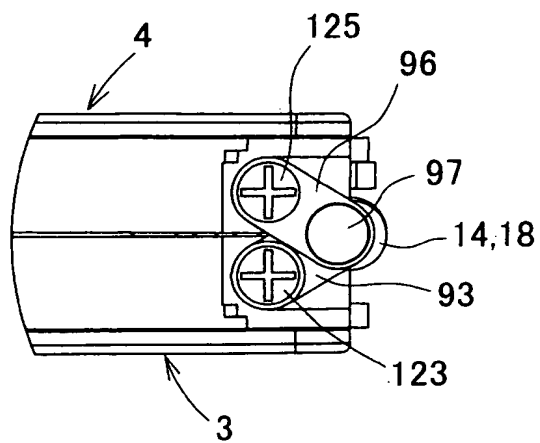
【図 16】



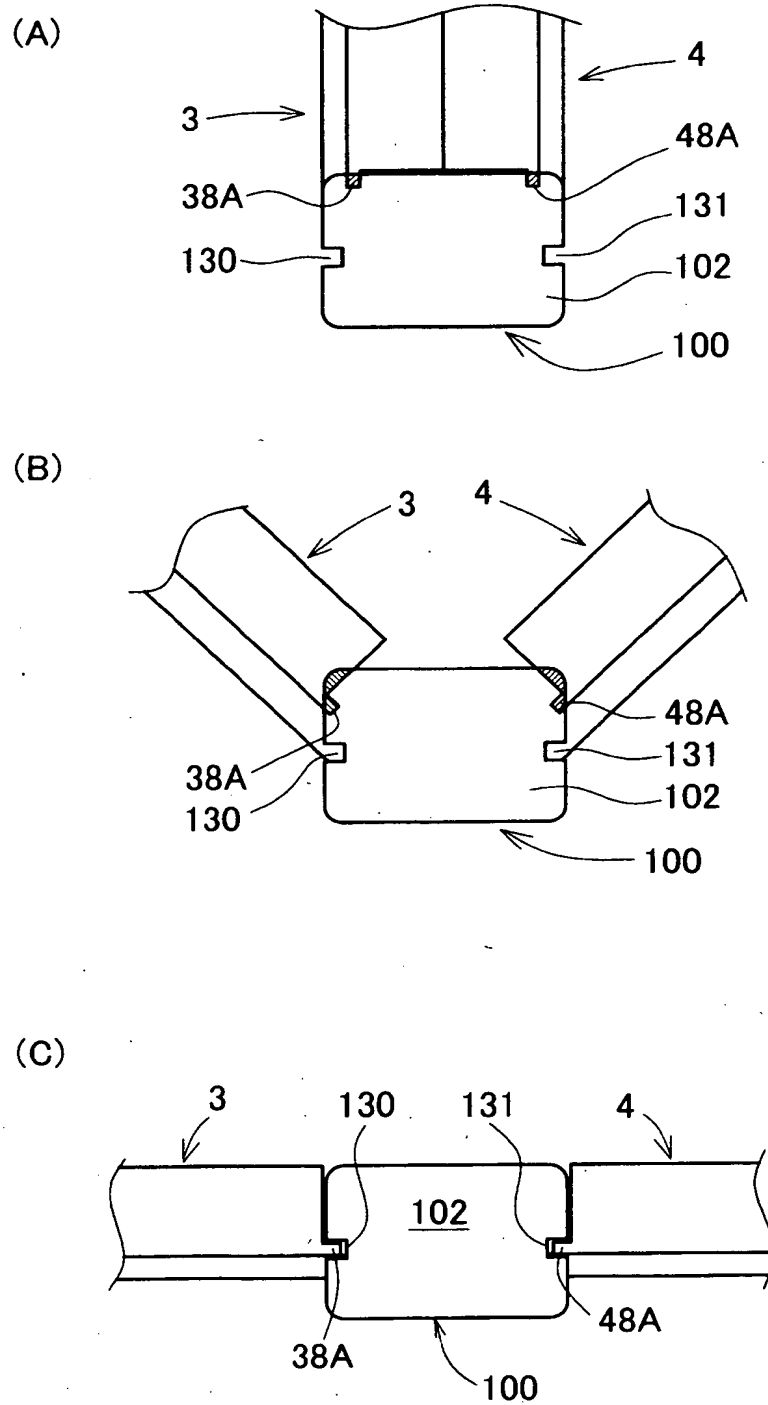
【図 17】



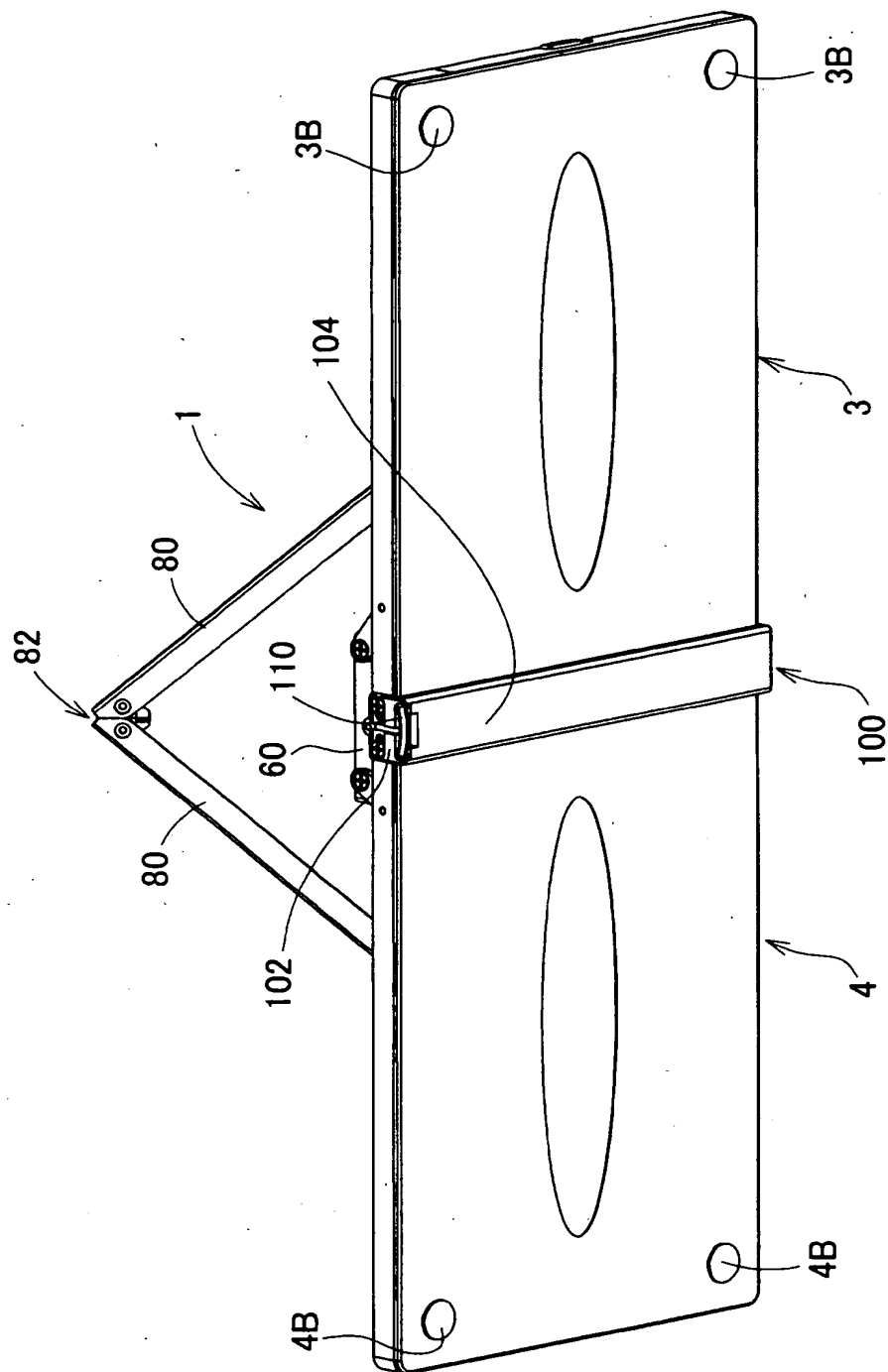
【図 18】



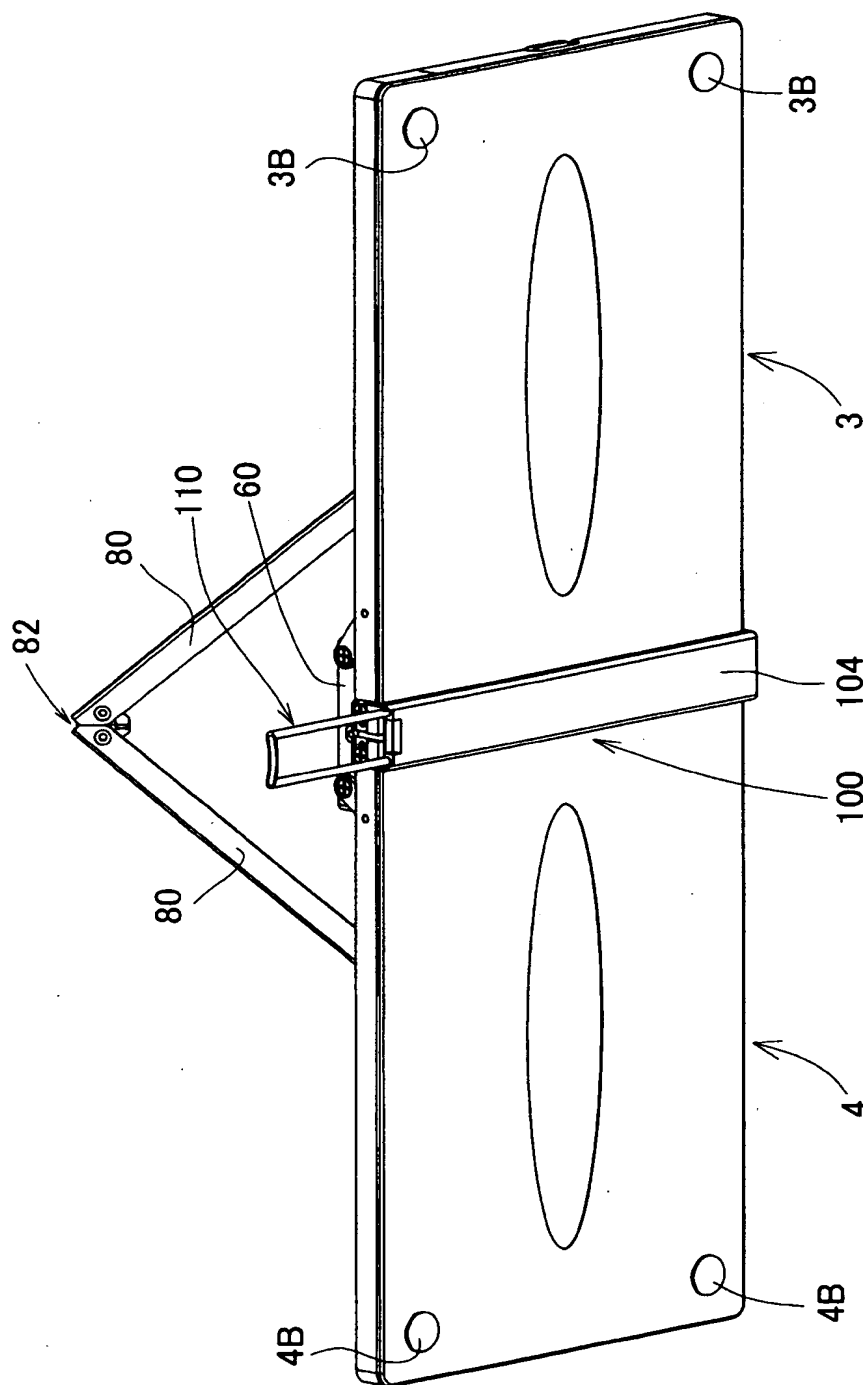
【図 19】



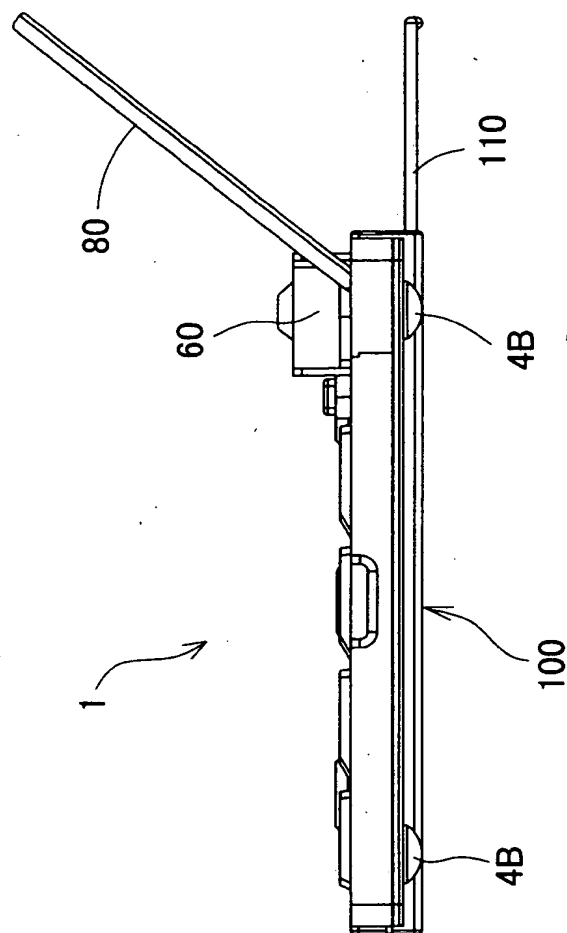
【図 20】



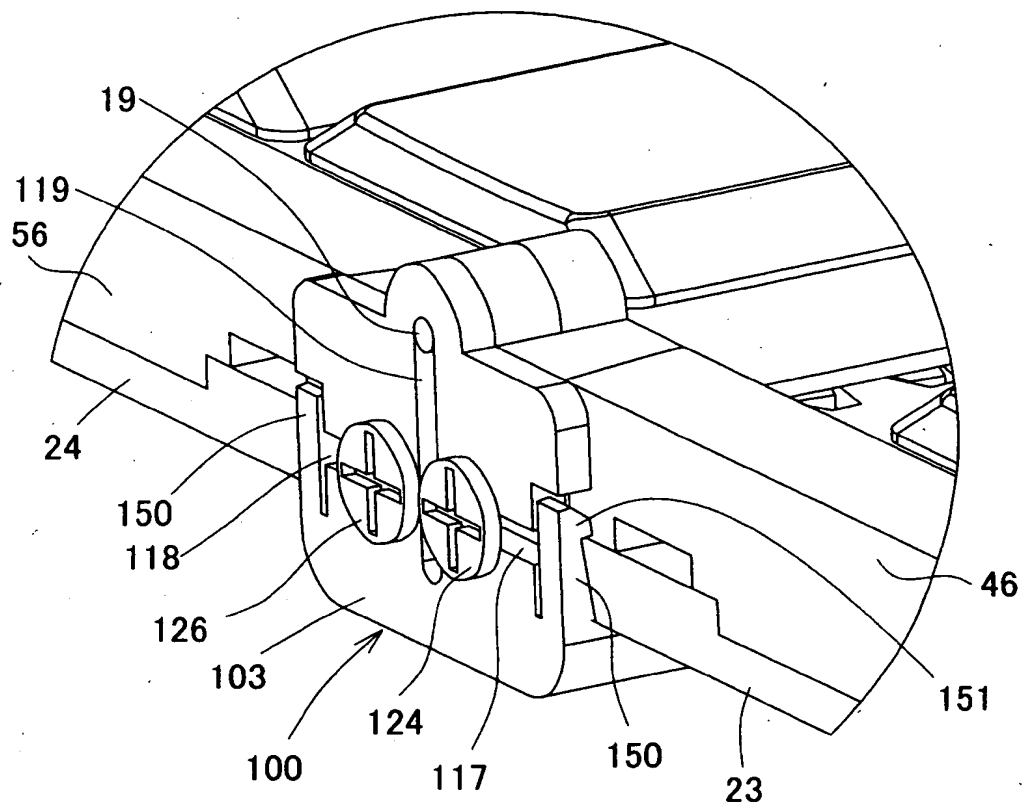
【図 21】



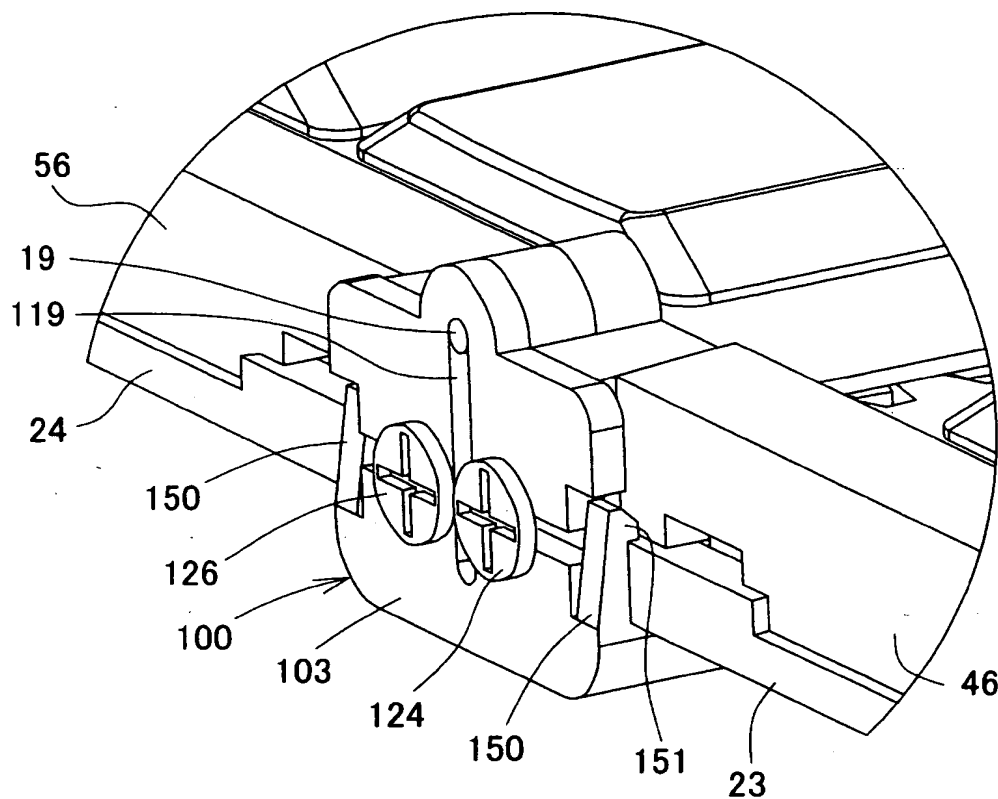
【図 22】



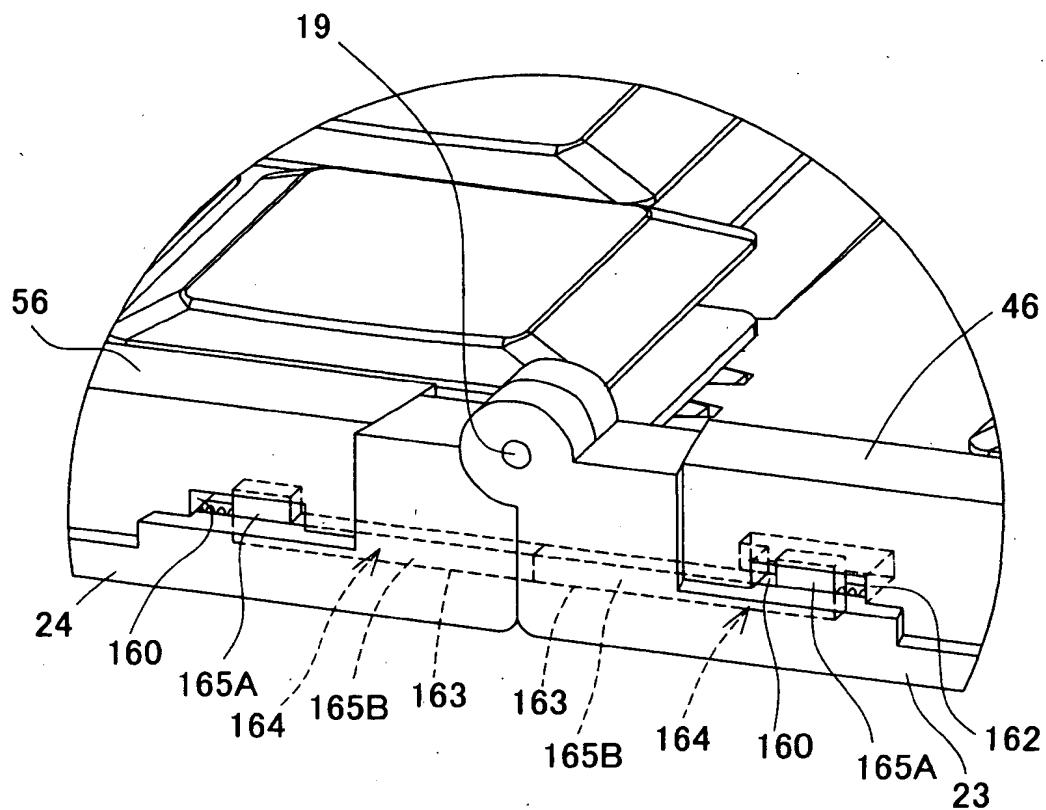
【図 23】



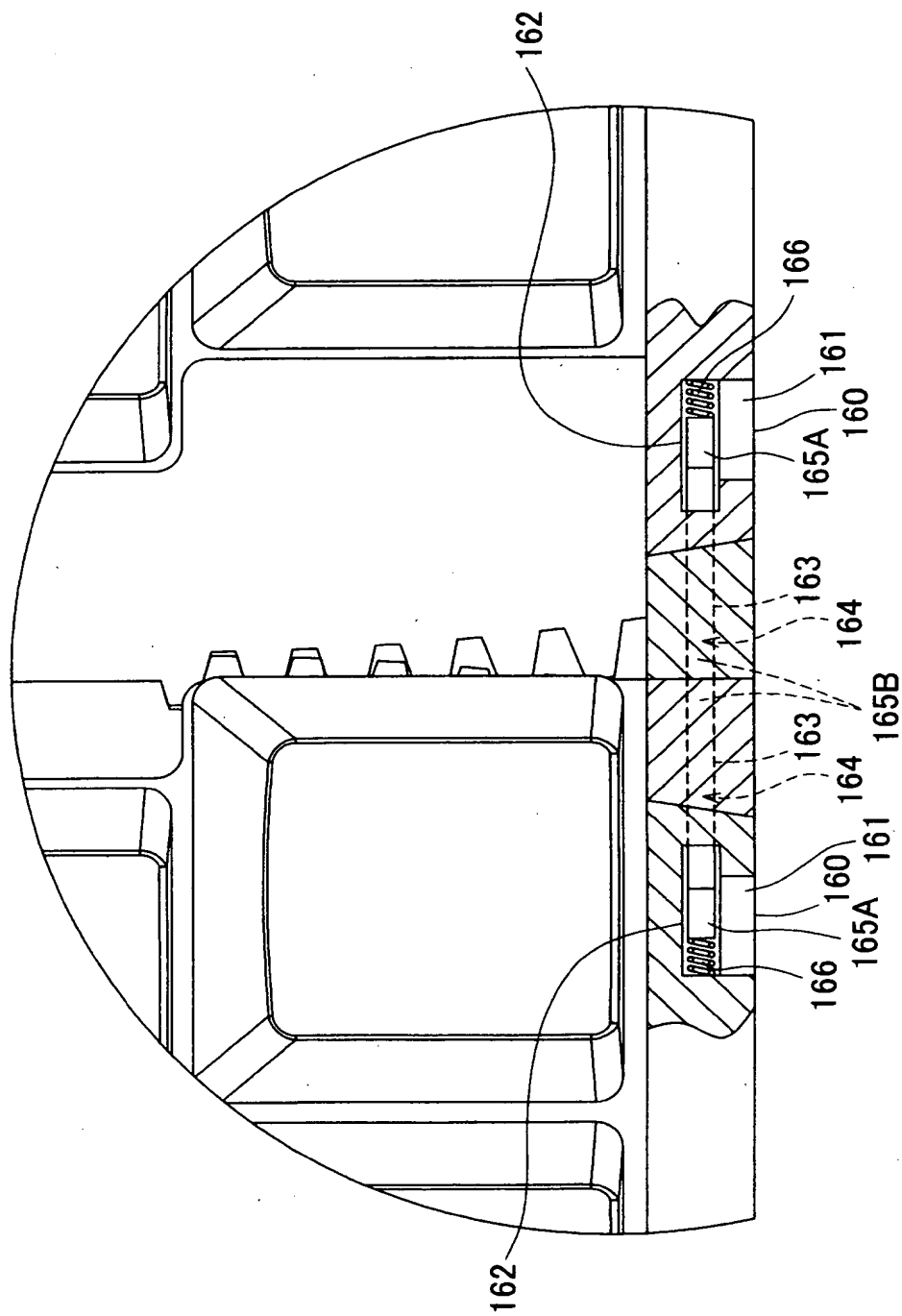
【図 24】



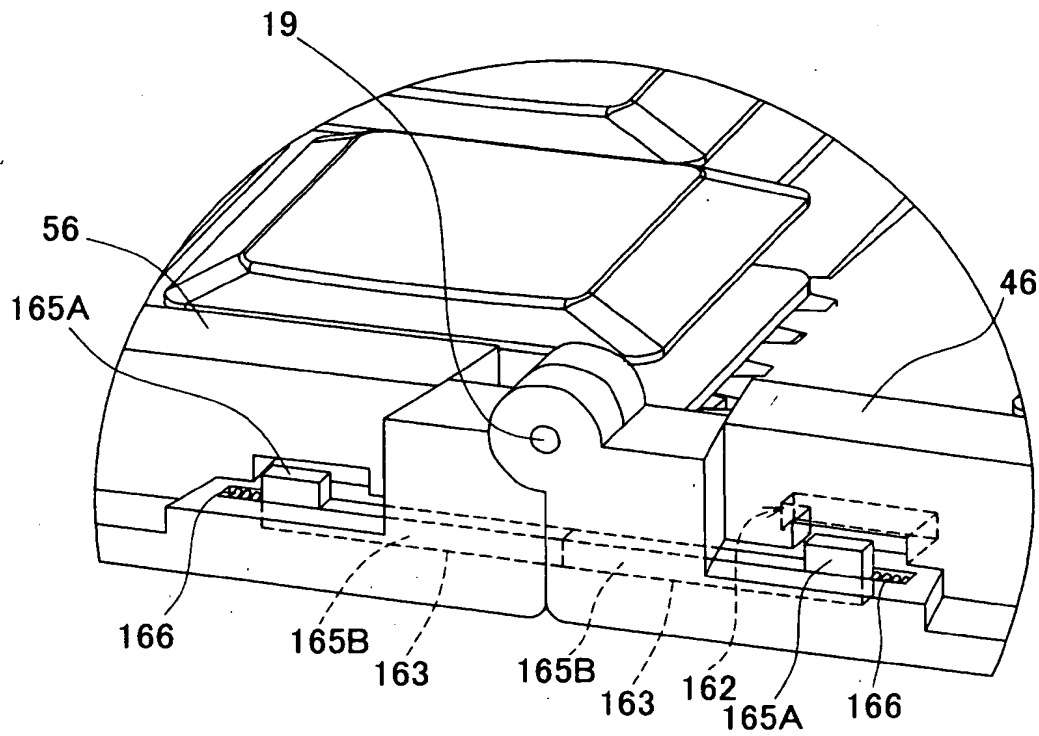
【図 25】



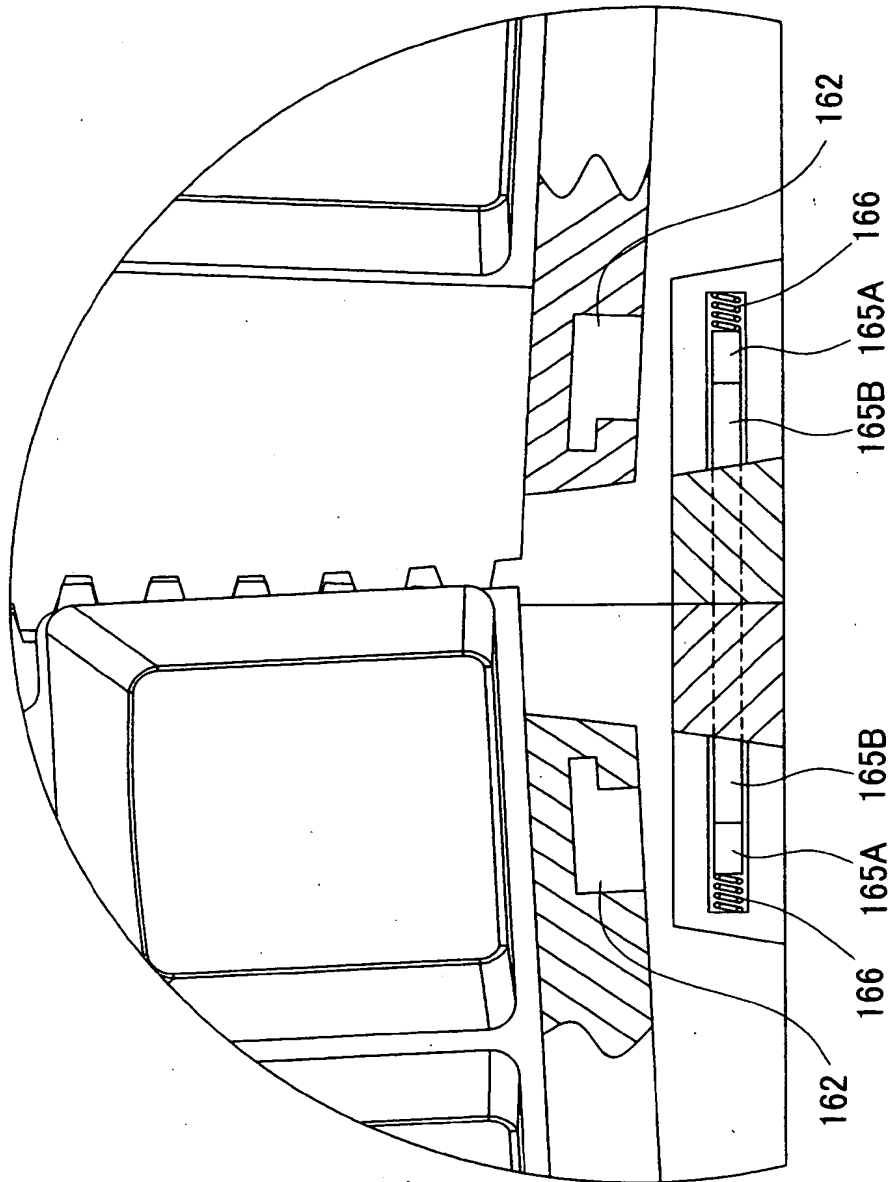
【図 26】



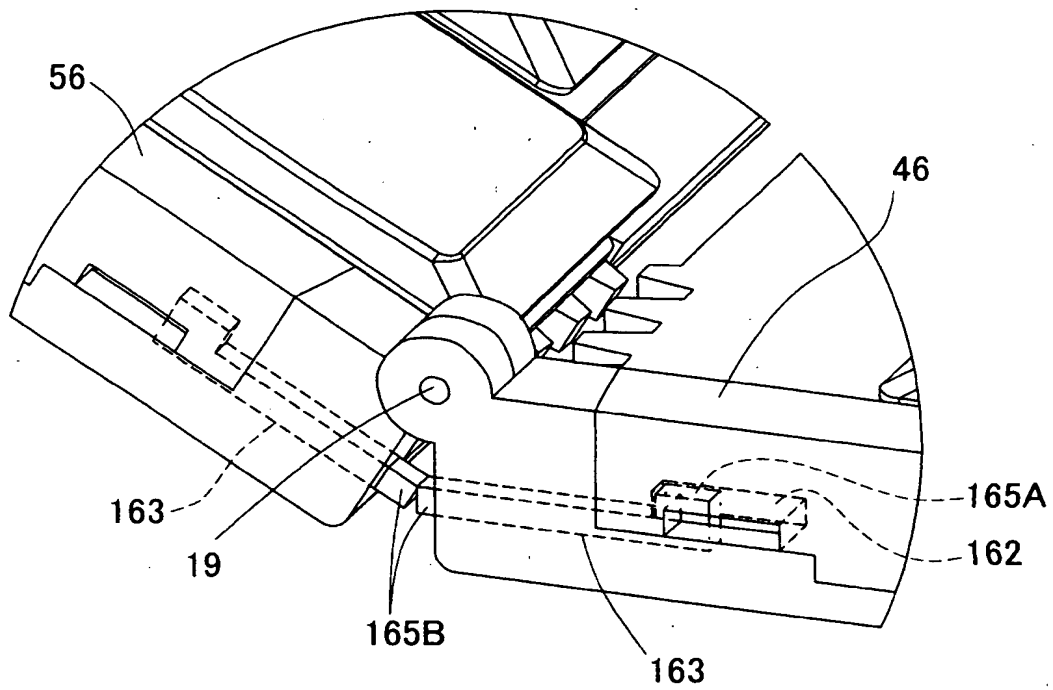
【図 27】



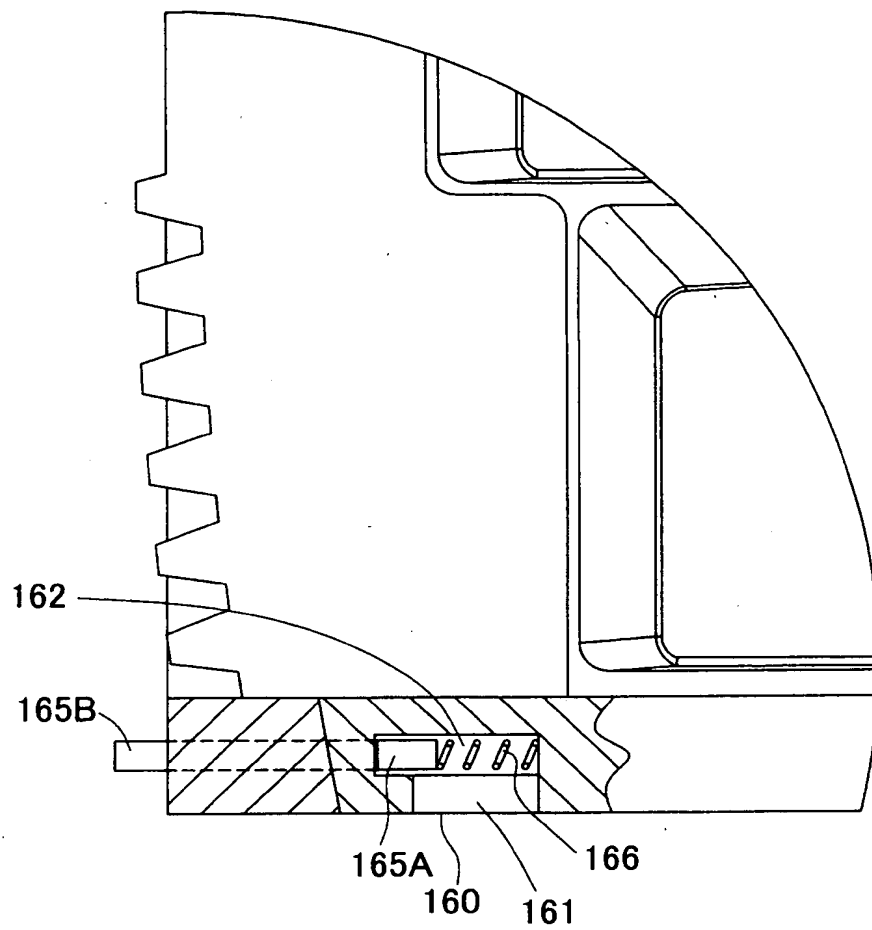
【図 28】



【図 29】



【図 30】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 PDA等の携帯小型機器を接続支持した際に、かかる携帯小型機器の重量に起因してキーボードがその設置面から離間してしまうことを防止して安定してキーボードを操作できる折畳可能なキーボードを提供する。

【解決手段】 非使用時には蓋部材100のカバー部101内に収納しておき、使用時にはキーボードの外部に引出可能に構成された安定部材110を設け、安定部材110を使用することにより、第1キーボードユニット3と第2キーボードユニット4とを水平状態にしてキーボード1を使用する際に、前記した各支持部材80、80を起立状態にしてPDA等の小型形態機器を支持することに起因して、小型形態機器の重量により各第1キーボードユニット3、第2キーボードユニット4の底面がその設置面から離間してしまうことを防止するように構成する。

【選択図】 図22

特願 2003-092064

出願人履歴情報

識別番号

[000005267]

1. 変更年月日

1990年11月 5日

[変更理由]

住所変更

住 所

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

氏 名

ブラザー工業株式会社